

以下原本不明瞭



國立公文書館
分類
警察序
9
排架番号
4 E
15 - 4
664

昭和八年十二月

146

第六拾五議會說明資料

警備局保安課



秘

9

警保局保安課

第六十五議會說明資料



昭和八年十二月

警保局長

第六十五議會說明資料

目 次

一、日本共產黨，運動狀況	一
一、日本勞動組合全國協議會，運動ト其，取締狀況	八
一、赤化小學校教員，檢舉狀況	十四
一、反戰運動，取締狀況	二三
一、日本勞農辯護士團，檢舉狀況	二八
一、左翼學生運動ト其，取締狀況	三〇
一、日本プロレタリア文化聯盟，運動ト其，取締狀況	三二
一、神兵隊事件，概要	三六

一 救國埼玉青年挺身隊事件、概要

三九

一 勞働運動並勞働爭議、狀況及之が取締對策

四二

一 農民運動並小作爭議、傾向及之が取締狀況

四七

一 高松地方裁判所、裁判ニ對スル全國水平社、抗議運動

並其、取締狀況

五三

一 香川縣水平社員、傷害、公務執行妨害、治安警察法違反事件ニ關スル狀況

六一

一 海外不逞鮮人、内地潛入ニ對スル取締狀況

六六

一 上海不逞鮮人、現況並之が換查狀況

六九

一 中華民國留學生ニ對スル退去處分狀況

七四

## 日本共產黨、運動狀況

- (一) 概況
- (二) 中央部、狀況
  - (1) 議會及選舉ニ對スル運動
  - (2) 共、他、運動
  - (3) 反戰運動
  - (4) 財政運動
  - (5) 檢舉、狀況

從來、中央部ハ昭和七年十二月迄ニ潰滅シガ、昭和八年一  
月下旬山本正美(農園ヨリ帰国)中心トナリテ中央部ヲ構成シ、再建  
運動中、五月上旬山本正美等中央部員檢舉之ラレ、其、他中央

一

地方、各組織及外郭諸團体、檢舉續行エラシト。六月以来迄  
野其、他、所謂轉向問題發生シ等、為運動著シク衰微シツ  
アリ。

## (二) 中央部、狀況

日本共產黨ハ昭和七年十月廿日、檢舉ニヨリ中央常任委員ノ  
大部分及全國代表者等檢舉エラレ。其後殘留分子ニヨリ組織  
セラレタル臨時中央委員會モ亦八年十二月一日檢舉エラレ。中  
央部ハ一時潰滅スルニ至レリ。

然ルニ八年十二月未頃露國ヨリ帰國シタル、アレキセーフ事  
山本正美ハ谷口直平、山下平治、飯島喜美、松尾茂樹等ト順次

連絡シ、一月下旬中央委員會ヲ結成シ、從來、常任制ヲ改メテ政  
治局、組織局、書記局ヲ構成シ、二月家屋資金局ヲ解体シテ財  
政部ヲ確立シ、從來、資金活動ヲ改メテ財政活動方針ヲ確立シ  
尚三月軍事部ヲ再組織シ、其、組織系統ヲ改善シテ基本組織ト  
、緊密ナル連絡ヲ計ル等中央部、組織確立ニ努メ、又暫定規約  
ヲ作成シ、赤旗「カンパ」(二月ヨリ)、失火テー(三月五日)  
メーテー等、諸種、闘争ヲ通ジテ下部組織ノ擴大強化ニ努メタ  
ルが、四月二十日及三日ニ亘り山本正美、谷口直平、山下平治、  
中心分子其、他檢舉エラレシ為運動又々頓挫ヲ来シ其後殘留  
分子ハ秘カニ策動シ居ル模様ナルか、間断ナキ檢舉ニヨリ其、

組織ハ常ニ破壊ニラレフ、アリ。

### (三) 反戦運動

昭和六年滿洲事変勃發以来、反戦運動ヲ當面主要、運動トナシ各種、運動ヲ之ニ結合シ、集中シ來リタルが、本年一月日支停戦協定成立以来ハ戦争終息セリト、念ニ基テ、其、運動稍々沈滯ヘル、傾向アリタルが中央部確立スルヤ、從来、軍事部ヲ改メテ中央地方、党基本組織ト密接、連絡ヲ保持スル組織型態トナシ、建國祭及對開争（二月十一日）ヨリ「メーテー」迄、各「カンバ」、基本的任務トシテ日帝開争ト反戦開争トノ結合ヲ強調シ、從来、日和見主義、克服ニ努メ、別ニ三月上旬党ト大

衆團体、反戦開争ノ統一、為メ反戦委員會ヲ組織シ、五月開催、予定ナリシ（二月廿日開催）上海反戦極東大會ニ對スル支持運動ヲ煽動シ、我國ヨリ代表派遣ヲ画策シ、又八月、閏東地方ノ防空演習ニ對スル反対運動其、他出征兵帰還兵等ニ對スル策動ヲ煽動宣傳シタリ、又兵營、軍艦内ニ於ケル基本的組織、結成ニ努メタル模様ナルか未ダ其、組織、確立ニルヲ認メズ

### (四) 財政運動

昭和七年中財政方面ニ特異、運動ヲ展開シタル家屋資金局、運動ハ、拐帶逃亡、ヤンク事件等極化的投機師の傾向濃厚ニシテ、為ニ党、信賴ヲ害シタル事、大ナリトシテ、八年一月中旬

部確立スルヤ、先づ之が改革ヲ計リ家屋資金局ヲ解体シ整理委員會ヲ設ケニ月財政方針ヲ確立シ、黨財政ノ基礎ヲ大衆ニ置キ從來ノ「ジンバ」網ハ基本組織又ハ「赤旗友の會」ニ編成シ、「赤旗友の會」ハ細胞、周圍ニ集中細胞財政係ニ於テ集金シ順次上級機關ノ財政係ニ集中スル方法ヲ採リタリ。

然ルニ此ノ方法ハ大口資金ノ蒐集無ク財政窮迫シタル為、五月ヨリ十一月マテ、間ニ亘ル党防衛七万円基金カンバヲ起シ極力運動資金ノ蒐集ニ努メタルか其、成績良好ナラズシテ財政ハ極人元欠乏シ居リテ、彼等ノ最も重視セル赤旗、印刷ニスラ時ニ支障ヲ来シツ、アル狀況ナリ。

#### (五) 文書運動

党中央機關紙「赤旗」ハ發行ハ黨、最重要ナル運動トシテ、極力之が續刊ニ努メワ、アリテ八年モ亦引續キ之が發行ヲ繼續シツ、アルモ、最近財政窮乏、為發行困難、模様ニシテ赤旗一カンペレヲ起シ其ノ衰勢、捲面ニ努メタルガ依然トシテ其ノ發行回数モ減サシ其ノ型モ縮少シツ、アリ然シテ黨獨自ノ印刷所、建設ヲ希望シツ、アルモ檢舉ハ為不可能ナルヲ以テ一般印刷所ヲ利用シ来リタルガ、今年十月警視廳ニ於テ干係印刷所十六ヶ所ノ檢舉ヲ行ヒタル為、印刷所ノ選択、獲得ニハ非常ニ困難シツ、アル模様ナリ。

其、他中央委員會々報、煽動宣傳者（アケラコ報）、情報部報等、各中央部報告書ヲ印刷配布シ、又理論的中央機關紙「

ヴォルセヴィキ」、發行計畫。其、他各「カンバ」ニ於ケル印刷物、發行等ヲ為シ居ルモ、七年ニ比シ運動遙カニ衰微シ。

#### (六) 議會及選舉ニ對スル運動

第大十四議會ニ對シテハ七年来引續キ反對運動ヲ行ヒ來リ、又八年春以来行ハレタル各地市町村會議員選舉運動ニ對シテハ、詳細ナル運動方針ヲ指示シテ候補者ヲ擁立シ、運動ヲ起スベヤヨ煽動シタルガ立候補者ヲ見ズシテ終リタリ。

#### (七) 其、他、運動

各種記念日、運動及東北凶作災害救援運動其、他地方の各種運動、激發ニ努メタル模様ナルが、其、欲スル大衆的運動、如キハ組織スルヲ得ズ、特ニ見ルベキモノナクシテ終リタリ。

#### (八) 思想轉向問題

昭和五年八月頃三・一五事件被告中、一部ニ所謂「解帶派」ト称スル一派發生シ、從來、共產黨、運動ニ對シ反對的態度ヲ表明シテ運動ヲ起シタルモノアリタルハ、八年六月ニ至リ再び三・一五事件、中央指導部員佐野栄、鍋山貞親、兩名先づ共產黨、

運動ニ對シ及對的聲明ヲ為シ引續キ高橋貞樹、三田村四郎等之  
ニ賛成シ、其、他被告受刑者等ニニ贊意ヲ表スル者續出シツ、  
アリ。其ノ概況尤ノ知シ。

(1) 佐野鍋山思想轉向聲明發表迄ノ経過

佐野學ハ昭和七年十月暖ヨリ鍋山ハ八年一月頃ヨリ思想動  
キ北アルヲ認メタルガ、二月ニ至リ兩名ヨリ市ケ谷刑務所長ニ  
思想、轉向ヲ披瀝シ、手記作製、許可ヲ受ク、五月二十日ニ至  
リ、滋澤ナリ手記ヲ提出シ、尚一般労働者農民並ニ共同被告ニ對  
意見、要項發表方ヲ願出ヅルト失ニ、六月九日獄外共同被告  
代表藤沼榮四郎及關係辯護人上村進ニ、同十日被告代表難波英

夫、兩名ニ干係書類ヲ發送シ、其後弁護士ト會見シ説明スル所  
アリタリ。

(2) 思想轉向、動機

思想轉向、動機ハ市ケ谷刑務所長、諭ル所ニ依レバ、尤ノ如ク  
ナルが曩ニ言渡アリタル無期懲役刑之亦原因ノ一ト思料セラル。  
但過去數ヶ年ニ亘ル刑務所生活裡ニ於ケル思索ト反省ノ結果  
潜在セル日本民族意識、抬頭。

- (1) 宗教書籍ニ親シミ特ニ佛教、深遠ナル哲理、會得、
- (2) 社會情勢、變化ト共産黨、勞働者農民ヨリノ離反、
- (3) 日本ノ家族制度、特性、

(3) 説句セル思想ノ要旨

(1) フコミンタンートノ分離

(2) 戰爭及對開争ニ於ケルフコミンタンノ敗戰主義及對

(3) フコミンタンノ國際主義ニ反対シ、當面日本中心ノ一國  
社會主義、實現

(2) 日本ノ君主制ヲコジアツ「ツアリズム」ト同視スル及君主  
開争及對

(ホ) フコミンタンノ植民地國家分離政策及對 日本、滿洲、  
台灣、朝鮮勤労民衆ヲ結合スル社會主義國家、建設

(4) 説句聲明ノ影響

右説句声明書發表之ラル、ヤ一般ニ相當、衝動ヲ與ヘ、特ニ  
獄内被告其ノ他ニ對シテハ其ノ影響大ニシテ共鳴スル者續出シ。  
中尾勝男八六月廿日付、高橋貞樹、三田村四郎ハ七月一日付ニ  
テ各賛意ヲ表之し聲明書ヲ發表シ、又國間丈吉ハ十月廿六日付  
ニテ公様説句ヲ發表シタリ。以上、外説句スル者各地ニ續出シ  
中ニハ前例ナキ自首ヲ為ス者サヘ生スルニ至リタリ。

(5) 党ノ態度

党中央部ハ赤旗第一四八號（六月十六日付）ニテ佐野、鍋山ヲ除  
名シ、其後赤旗其他ニテ極力之ヲ排撃シ、三田村、高橋、中尾  
ハ赤旗第一四八號（六月十六日付）ニテ除名ヲ發表シタリ。

(九) 檢舉、狀況

七年十二月マデニ一應中央部及地方組織ノ大部分ヲ檢舉シタルが、其ノ後又續々各地ニ於テ檢舉ヲ續行シ、特ニ五月上旬中央部ヲ檢舉シ其後モ亦中央地方ノ組織ノ壞滅ニ努メタリ。然シテ八年中起訴セラシタル者ハ十一月末ニ於テ一千余名ニ達シ其ノ員數ハ嘗テ見ザル多數ニ上リツ、アリ。

一、日本労働組合全國協議會、運動ト其取締狀況

日本労働組合全國協議會（畧称全協）ハ昭和三年四月十日日本共產黨ノ檢舉ニ關脚シ結社禁止處分ヲ命シタル日本労働組合評議會（畧称評議會）ノ再建ヲ目的トシテ同年十二月二十五日非合法下ニ結成シタル革命的労働組合ニシテ、既ニ昭和三年三月評議會時代ニプロブイントエルンニ加盟シタルヲ繼承シテ創立後ハ其ハ日本支部トシテ日本共產黨及プロブイントエルンノ指導下ニ左翼独自ノ方針、下ニ全國的單一的產業別労働組合主義ノ原則ニ倣リ之ヲ統制シ各種產業ニ浸透セシムベク殊ニ重要企業大工場ヲ目標トシテ基本的組織タル介會ノ確立ニ努力シ、經

済斗争ト政治斗争トヲ巧ニ結合シテ労働階級ノ革命化ヲ期シ、  
セキラルストライキ・大衆的デモンストレーション等ノ手段ニ  
ヨリ労働者ヲ蹶起セシムル為メ不斷；開幕ヲ續ケ毎年數回ニ亘  
リ革命的檢閑ト称シテ國際的又ハ國內的各種記念日ヲ期シ街頭  
示威運動ヲ決行シテ實踐的訓練ヲ行フ等綱激不穏ノ行動ニ出テ  
木リ其ノ究極ノ目的ヲロレタリアノ独裁即チ我國体ノ更革ニ  
置クモノナルニ鑑ミ、警察當局ヲ督励シテ不斷ニ嚴重ナル取締  
ヲ行ヒ未レル所ナルカ其ノ創立後今日ニ至ル間ニ於ケル主ナル  
中央部ノ檢舉ヲ擧ガレバ、

(1) 昭和四年四月十六日 日本共產黨第二次檢舉ヲ中心トスル

中央部員西村葵喜、伊藤保等ノ檢舉（中央部潰滅）

(2) 昭和五年二月ノ選舉斗争同盟檢舉ヲ中心トスル川崎堅雄、

小林吉作、石館虎鬼宗、小林良吉、大山政雄等ノ檢舉（中央  
部潰滅）

(3) 昭和五年八月ノ日本共產黨中央部田中清玄一派ノ檢舉ヲ中

心トスル鄭木原群二、片山信忠、程島武夫、神吉洋二等ノ檢

舉

(4) 昭和七年四月ノ溝上眞久馬、角田逸治、伊藤友猪、田中武

等ニシテ各地方ニ於テモ亦凡ソ組織アルヲ探知スルヤ取締ヲ

九

嚴重ニシ其ノ行動激化ノ傾向ヲ呈タルヤ直ニニ檢舉ヲ行ヒ組織  
破壊削減ニ努メ木リタリ。

然リト雖モ本團体ハ前ニ述べタル如ク是ノ究極ノ目的ヲ我國  
體ノ變革ニ置キ極メテ矯激ナル革命的行動ニ出ベルモ先ツ經濟  
闘争ヲ政治闘争ニ結合セシムルコトヲ強調スル程度ニ於テ勞動  
階級ノ解放ノ為メニ活動スル範囲ニ止メ木リタルヲ以テ數次ノ  
檢舉ヲ行フモ本組合員ニシテ同時ニ日本共產黨又ハ日本共產者  
年同盟ニ何等カノ關係ヲ有スル場合ニミ治安維持法ニ依リ處  
理シ得ルモ其ノ他ノ場合ハ假令本組合ノ組織者又ハ役員若ハ指  
導者タル地位ニアリタルモノタリト雖モ始々起訴猶豫又ハ全然

起訴セサル状況ナリシヲ以テ檢舉取調ノ上將木ノ嚴重戒諭シ狀  
放スルヤ直チニ地下ニ潛入シテ再ヒ運動ヲ繼續スルモノ多ク警  
察取締上最モ遺憾トスル所ナリシナリ。

然ルニ昭和七年四月溝上、角田等中央部ノ檢舉後ニ於テモ尚  
屈セズ殘留幹部官上則武、高江川重正等ハ當時強力ナリシ党組  
合部援助ノ下ニ下部組織及地方協議會ヨリ優秀メンバーノ起用  
シテ全年四月ヨリ五月ニ亘リ全國大會ニ代ルベキ第一回擴大中  
央委員會ヲ開催シテ組織方針、運動方針、ストライキノ戰略戰  
術等ノ中心問題ヲ協議決定シ、直チニ之ヲ實行ニ移スベク、各  
産別組合間ノ社會主義闘争ノ方法ヲ以テ擴大會議決議実踐カン

パニアヲ決行シ、又從來、幹部任命制ヲ廢シテ民主的選出ニヨリ中央委員ヲ選出し、陣容ヲ整備シテ組織ノ擴大強化ニ努メタリ。

一方党ハ恰モ其前後ニ於テ「コミンテルン」レヨリ所謂新アーヴィ日本に於ケ、情勢ヒ日本共産党の任務に關す。テ一方受ケ之レヲ各外廊團体ニ指令スルヤ全協ハ當時党総合部セレヲ受ケシテ強力ナル指導ヲ受ケツツアリタルヲ以テ各外廊團体ノヲ通シテ強力ナル指導ヲ受ケツツアリタルヲ以テ各外廊團体ノ急先鋒トナリテ該「テー」セレヲ全部的ニ支持共鳴シ前記拡大會議後各產別又ハ各地方ヨリノ中央委員ノ選出ヲ待テ今年九月中旬二個ハバルハバニ分チテ東京渋谷及神奈川縣下金沢町ニ於テ第一回中央委員會ヲ開催シ、新運動方針ノ確立、重要產別組合

及車要地方ニ於ケル活動方針ノ確立、行動綱領規約ノ決定、民主的選出ニ依ル新指導部ノ確立等ヲ審議決定シタルニ當リ、規約中ニ一本組合は國際赤色労働組合に加盟し其の日本支部であるレトプロフインテルントノ關係ヲ明確ニ規定シ、且ツ、行動綱領中ニハ

○ 帝國主義戰争反対ノ為メノ斗争

○ 天皇制打倒ノ為メノ斗争

○ ソビエート同盟擁護ノ朝鮮台灣ノ完全ナル独立ノ為メノ斗争

等ノ項目ヲ採用スルコトニ決定シ、國体ヲ變革セムトスル目

争

的ヲ表面ニ掲ゲ、而モ其後ハ天皇制打倒ニ対スル斗争ノ徹底化ニ主力ヲ注ギ、全協中央部機関紙「労働新聞」、各産別中央機関紙等ニ於テ此ノ問題ヲ強調セル為メ遂ニ下部組織ニ於テ發行スル工場新聞ニ至ル。迄本問題ヲ取扱フニ至リタリ。一方昨年十月三十日日本共產黨ノ檢舉（所謂熱海事件）ニヨリ党中央部潰滅ニ歸スルヤ全協中央部ハ直チニ党中央部、再建ニ狂奔シ、其ノ日常ノ諸斗争ハ労働組合ノ本質的任務ヲ逸脱シ專ラ「帝國主義」戰爭ニ於ケル軍事的警察的天皇制政府ノ敗北、ソウエート同盟ノ擁護、植民地ノ独立、帝國主義戰爭反対ノ斗争ヲ警察的天皇制打倒ノ為メノ斗争、米ト土地ト自由ノ為メ労働者農民ノ政

府樹立ノ為メノ斗争レヘ發展サセ結合ヒシムルコトヲ任務ナリトシ又滿洲事變ニ關シテハソヴエート同盟攻撃ノ為メノ戰争ナリトシテ反戰斗争ニ狂奔スル等齋激ナル政治行動ヲ敢行スルニ至リタルニ鑑ミ各廳府縣當局ヲシテ取締ノ徹底ヲ期セシムル。共ニ昭和七年六月司法省ト協議ノ上八年五月以降全協關係者ヲ治安維持法第一條第一項前段ノ結社罪トシテ處理スルノ新方針ヲ決定シ其ノ執行ヲ督助シツツアリ。

斯クテ情勢最モ逼迫セル全協本部並ニ各産別組合本部及東京地方ノ組織ニ封シテハ八年二月二十七日ヨリ徹底的檢舉ヲ行ヒ各地方ニ於テエ凡ソ組織ノ存スル地方ニ於テハ檢舉ヲ励行シテ

其ノ組織ヲ全國的ニ潰滅シメツツアリ

八年一月以降十月末日ニ至ル間ニ於ケル全國ノ檢舉狀況ハ概

要別表ノ通リニシテ一過三府三十六縣下ニ亘り核査其言給

方計即チ結社罪ニヨリ起訴セテレタルモ

一四六名ニ達シ居レリ

日本労働組合全國協議會關係檢舉者調查表		（昭和二年四月一日）	
		新規別	處理別
		檢舉者總數	起訴數
北海道	一、一、六	一、一、六	一、一、六
警視廳	一、七、九	一、七、九	一、七、九
京都	一、八、三	一、八、三	一、八、三
神奈川	一、七、九	一、七、九	一、七、九
大阪	一、八、四	一、八、四	一、八、四
福岡	一、七、八	一、七、八	一、七、八
熊本	一、六、八	一、六、八	一、六、八
佐賀	一、五、八	一、五、八	一、五、八
長崎	一、五、八	一、五、八	一、五、八
鹿児島	一、五、八	一、五、八	一、五、八
沖縄	一、五、五	一、五、五	一、五、五
合計	三、四、四	三、四、四	三、四、四

備考

(1) 本表ニ倍社罪十八治安維持法ヲ一係ヲ該ノ結社ノ組織者、指導者、加入者ニ罪ヲ云  
一、前款罪、女子ノ既ノ不入

卷之二

府 県 別	檢舉者總數	起 訴 數	收 容 數	有 數	起訴 率	檢舉者數 級數	備 考	處 理 別
								審 判 部 門
北海道	一一六	一	一	一	一	一	一	起訴
七九四	七	八四	一	一	一	一	一	審判
警視廳	二五八	二	二	二	二	二	二	起訴
七九四	七	九一	一	一	一	一	一	審判
京都	二七八	二	二	二	二	二	二	起訴
大坂	四七八	四六	三	三	三	三	三	起訴
神奈川	二二	二	二	二	二	二	二	起訴
兵庫	二五	二	二	二	二	二	二	起訴
長崎	二五	二	二	二	二	二	二	起訴
新潟	四五五	四五	三	三	三	三	三	起訴
埼玉	一九〇	一九	一	一	一	一	一	起訴
群馬	一四	一	一	一	一	一	一	起訴
千葉	一三	一	一	一	一	一	一	起訴
茨城	二三	二	二	二	二	二	二	起訴
栃木	一八	一	一	一	一	一	一	起訴
埼良	一八	一	一	一	一	一	一	起訴
三重	四八	四	一	一	一	一	一	起訴
愛知	七五	七	一	一	一	一	一	起訴
靜岡	一四一	一	一	一	一	一	一	起訴
山梨	二九	二	一	一	一	一	一	起訴
長野	三七八	三一	一	一	一	一	一	起訴
岐阜	一八八	一八	一	一	一	一	一	起訴
福井	一五五	一五	一	一	一	一	一	起訴
石川	一五	一五	一	一	一	一	一	起訴
富山	一五	一五	一	一	一	一	一	起訴
鳥取	一四	一四	一	一	一	一	一	起訴
島根	一三	一三	一	一	一	一	一	起訴
岡山	一五	一五	一	一	一	一	一	起訴
高知	一三八	一三八	一	一	一	一	一	起訴
德島	一五八	一五八	一	一	一	一	一	起訴
香川	二六	二六	一	一	一	一	一	起訴
愛媛	一五七	一五七	一	一	一	一	一	起訴
高知	一五八	一五八	一	一	一	一	一	起訴
福岡	二九	二九	一	一	一	一	一	起訴
大分	一六八	一六八	一	一	一	一	一	起訴
宮崎	一六八	一六八	一	一	一	一	一	起訴
鹿児島	一六八	一六八	一	一	一	一	一	起訴
沖縄	二	一	一	一	一	一	一	起訴
合計	三、六四、五	一七九	一	一	一	一	一	起訴

備考

(1) 本表ニ掲載社罪・治安維持法・一條ノ類・辯社ノ組織者・指導者・加入者・罪ヲ六フ

(2) 内数は、内数不入

(3) 起訴候者有、前年後半・後半

## 一、赤化小學校教員ノ檢舉狀況

全協ノ運動が最近頗ニ矯激トナリタルコトハ別項ニ掲ケタル  
通りナルガ殊ニ最近八軍需品工場官公衙等ノ組織ヲ重要視スル  
ニ至リ、就中小學校教員ノ赤化運動ニアリテハ全協日本一般使  
用人組合教育労働部門特別對策委員會（署称教分部）ニ於テ日  
本プロレタリア文化聯盟（署称コソク）所屬元新興教育同盟準  
備會（署称新教）又ハプロレタリア科學同盟（署称科同）  
等ト緊密ナル聯絡ノ下ニ地方支部ノ結成ニ努メ組合員中ニハ  
日本共產黨（署称黨）及日本共產青年同盟（署称共青）ト直接  
又ハ間接ニ關係ヲ有シ党及同盟ノ擴大強化ノ為ニ行動シ、一

方小學兒童又ハ地方青年ニ列シ共産思想ヲ注入スル尋念々深刻化スル傾向アルニ鑑ミ之レク取締ハ不徹底ニ致ル社會上ニ及バ入影響ノ重大ナルヲ慮リ全國的ニ共產團体ノ組織ヲ破壊シ以テ其ノ愛ヲ絶ツベシ昭和七年春以降各處共產團體ヲ督励シ末リタ

斯ノ東京所在教育本部並ニ東京文部ハ昭和七年十月及昭和八年六月ニ亘ニ亘リ檢舉ヲ行ヒ地方一アリテ王岩牛福島荷馬茨城府上新潟富山長野山梨大坂大分冲縄等所在ノ各教育本部並ニ長野富山群岡大阪秋田香川島根福岡等所在新設準備會支部ノ天々宿該廳存株商局ニ於テ檢舉シ同組織運動行ハレツ、アルヤ、能

アル地方ニ河内アハ嚴密ル内便観察ヲ督励シツ、アリ。全國ニ於ケル檢举狀況ハ別表ノ通リニシテ關係取調總人員ハ  
八七  
二三九名ニテ其ノ内現職小学校教員ハ  
八七  
三九九名ニテ其ノ内現職者ニシテア党  
者中起訴收容ヒタレタルモノハ  
員クリン者  
八七  
四名同上員クリンモノ  
八七  
一〇ト云ノ  
狀況一アリ。

以上ノ内運動最も廣範固ニ亘リ且フ深刻アリシハ長野縣ニ於ケル教育及新放、運動ニシテ此ノ檢舉ハ社會的ニ相當、衝動ノ興ヘ一去ル第十四議會ニ於テ二月二十八日作戸田誠貞ヨリ眞間書提出、三月七日、内務、文部、司法各大臣連署ニア谷井書提出、五月

秘密會ニテ結圖合年一タルビノナルト以テ其ノ事件、懶木ノ概要ヲ不セバ左ノ如シ。

同株雷局。於テ本年二月四日以未株下全般ニ亘リ検査シタル治安維持法、蓬及事件、關係團体、黨同盟、全協、全農、全國會議、コソガ、日本及帝國色彩收容會等極尼兵座主義運動、全戰線ニ亘リ就中全滿放勞部長鄭文部、新教長鄭文部、關係セル學校放員ハ放勞部關係者六十三名、新放關係者四十五名計百二十名ニシテ其他影響下ト認メラル、エノタ合スルバ其ノ數二百十五名ニ達シ係學校數六十六校一及ビ總計收容ヒラレタル有二十九名ニ達シタリ、因ニ前記各極尼團體、關係者ヲ合スルトキハ餘者有總數

六百八名ノタリニ達シ其内松軍向ニ送者シテル者、二百三十六名、起訴收容可レタル者七十六名、内女三名ニ及ビタリ。

而シテ小学校員、運動ハ極メテ巧サニ行ハレ

放逐、独立

信濃教育會、自立化

信濃教育互助會、粉碎

及効教育、撲滅

教育給不傳、及刈

經濟至上主義、ノイノロゴザーレ、把握

哥羅運動、目標トシテ文部、極大強化ヲ圖リ、黨、立派ヲ取り入

レ工兵、宣傳漫遊ニ努メ不リタルモ、ナルガ特ニ憂慮スベ一第  
態ト認メテレシハ是等ノ敵員ハ敵將書詔對拠聲、態度ヲ定メ小  
学校光畫ニ対シ放壇ニヨリ  
共産主義思想、宣傳ニ努  
メ居リタルコトナリ。然リト雖ニ敵員間ニ入党又ハ同盟、組織  
確立セズル以前、一揆暴行ニ之ヲ不然ニ防止シ得タルコトハ不  
幸中、サト云フベアリ。

四以下各卷共同錄

裏面白紙

一、全協放行部員  
二、二、他、固体、所屬關係、何スル有  
八、放行部員トシテ計上記入シ重複スル員放ニハ他ノ所屬固体  
名例、ハ新興放行企業員ハ附、日本ノロレクリト科学同業員ハ附  
全協他産別員ハ協、日本亦色放行會員ハ亦、号シ附シ傍ニ重  
記シタリ。  
一、何レカノ園体一所属シ日本大産完入ハ日本大産青年全  
加血シ居リルニハ一所属園体名、頭文字ヲ付シ充員  
人、六青員ノ欄ニ重記シタリ。尚非放職者更ニ  
非一ノ文字ヲ付シタリ。  
二、放行新興園ノミシ現職非放職區別之产計上記入シ  
タル元其、他ノ園体員ハ現職放員ノミシ計上記入シ





小學教員、治安維持法違反事件調其  
小學教員、治安維持法違反事件調其  
小學教員、治安維持法違反事件調其  
小學教員、治安維持法違反事件調其

卷之三

三、敵方、折敵員、ミハ現職、非敵職ヲ區別シテ計上記入シタル  
四、以下各表共同様

裏面白紙

卷二

小學校教員、治安維持法違反事件統計表								具一二	(至昭和七年五月一日)	
合計	沖繩	鹿兒島	宮山	秋田	山形	新潟	大坂	警視廳	總件數	備考
00000 00000 00000										
六			二		一		三		八	合計
二	一				一			一	一	件
一		一								卷
三				二						冊
一										本
八	二	二	一	一	三	一	三	一	八	合計
大	一				三		一			件

小學校教員、治文維持處反事一件調查							具	工	一月廿七日	上月三十日
合 計	狀 況	岩 牛	山 獸	崎 工	大 改	科 學	特 別	經 理	辦 公	備 考
三 一	五 一	七 一	一 一	六 一	一 一	四 一	八 一	九 一	十 一	十一 一
四 二	五 一	七 一	一 一	六 一	一 一	四 一	八 一	九 一	十 一	十一 一
一 一	五 一	七 一	一 一	六 一	一 一	四 一	八 一	九 一	十 一	十一 一
四 一	五 一	七 一	一 一	六 一	一 一	四 一	八 一	九 一	十 一	十一 一
三 二	五 一	七 一	一 一	六 一	一 一	四 一	八 一	九 一	十 一	十一 一

## 反戦運動、取締状況

### (一) 戰争ニ対スル共産主義者、態度

第三インター系共産主義者ハ所謂資本主義國家間ニ於ケル戦争ハ總ヘテ資本家、利益擁護獲得ノ為、帝国主義戦争ナリトノ見解、下ニ、若シ戦争巻起、際ハ軍隊並國民ヲシテ自國敗戦主義ヲ採ラシメ、之ヲ革命ニ転化セシムルノ方針ヲ以テ運動シウアリ。從テ常ニ現存軍事機構、破壊ト此等機構内ニ於ケル軍隊、青年團、青年訓練所等ヲ自派ニ獲得シ、右方針、実行ニ努メシムルト共ニ更ニ革命、際ニ於ケル赤色自衛團タラシムヘテ企圖シツ、アリ。

(二) 運動状況

(1) 國内ニ於ケル運動状況

從來此等一派、運動ハ主トシテ文書、發行配付並入營、除隊兵ニ集メテ座談会ヲ開催スル等、アホノ口運動ニ過モガリシか、昭和六年秋、滿洲事變勃発ト共ニ前述、如キ、戰爭ヲ革命へ転化レテ方針、實踐ニ努メツ、アリ。

即ち日本共產黨ハ昭和七年六月、新テノゼニ於テ反戰運動ヲ其ノ主要任務トシテ掲乞、新ニ軍事部ヲ確立シ、機關紙「兵士」の友レシ發行配布し、極メテ陰密ノ下ニ軍隊内ニ於ケル党組織ニ努メ、又日本反帝同盟其他、党外廊因係ハ機関紙其他、印刷

物ヲ以テ滿洲ニ於ケル皇軍ノ軍事行動ヲ悉ク帝國主義的侵略行動ナリト断じ、或ハソウエート同體攻擊、為ノ準備行動ナリト曲解宣伝ニ努メ、或ハ故意ニ皇軍ノ敗戦並国内ニ於ケル反戰運動、虛構事實ヲ報道シ、以テ社会不安、醸成ニ努ムルト共ニ運動員令ヲ受ケタル際ハ之ヲ回避スルコトナク進ニ元出征軍、中ニ入り込ミ、其ノ内部ヨリ反戰反軍運動ヲ起シ、一方革命ノ際ニ於ケル赤衛軍組織ノ準備ヲナスコト、農村不況ト出征兵士トノ關係シ結ビ付ケテ此等兵士、帰國竝遺族救援運動ヲ起スコト、無產階級ノ生活ト政府、軍事豫算並民間、飛行機其他ノ軍需品寄附募集運動ト結ビ付ケテ之ニ反対スルコト、出征軍人ノ工

場其他ヨリ、解雇反対並出征中日給全額支給、運動ヲ起スヘキ  
コト等ノ指示セリ。然ルニ其ノ實際的影響ハ警察取締、嚴重  
ナルト、一面今回、滿洲事變ヲ契機トシテ國民、愛國意識ハ彌  
ガ上ニモ高マリツ、アル折柄、其ノ反響ハ極メテ薄ノ、只党肉  
係ニ於テハ東京衛戍病院、吳鎮守府、麻布三聯隊、近衛野炮隊  
大阪歩兵第八聯隊、横須賀軍港等、極少數、党組織ヲ見タル外  
(七年十月以来、検挙ニ依リ全部検挙セラル) 滿洲事變以来軍  
人ニシテ反戦行動ヲナシタルモノ四件(因縁者四名)、軍人並  
其遺族ニ対シ反戦的傷キカケナシタルモノ八件ニ過ヤサ  
ル状況ナリトス。

(2) 上海ニ於ケル極東反戦大会ト本邦左翼分子ノ策応状況

日本反帝同盟ハ昭和七年七月以来、東京ニ於テ汎太平洋民族  
代表者會議ヲ開催スヘク種々策動シツ、アリタルが、同年十月  
末以未、日本共産党、検挙、影響ヲ受ケ、到底開催不可能トナ  
リタル為、其後國際反帝同盟ニ於テ在佛國際反戦委員会ニ策  
應シ國際反戦委員会シテ上海ニ於テ極東反戦大会、開催ヲ提  
唱セシメ、八年九月末、極秘裡ニ之ヲ開催セリ。而シテ右大会  
ハ平和ヲ愛好スル者、超党派的会合ナリト宣伝セルモノ、其ノ資金  
權ハ第三インタ系極左分子、掌握スルモノテアリ、又其ノ資金  
1如キモ第三インタカリ出資セラレタル模様ニシテ、其ノ目的

ハ平和愛好、名ノ下ニ大衆ヲ反戦運動ニ動員シ以テ我國ノ満洲其、他ニ於ケル軍事行動ヲ牽制シ、更ニ此、運動ノソグエート

同盟ノ擁護ニ發展セメントスルニ外ナラズ。

次ニ本邦左翼分子ニ対スル策應状況ヲ觀ルニ在佛國際反戦委員会ハ昭和八年六月原佛人口マンローラン、アントニオ・ベルビエス、署名ニテ我國ノ尾崎行雄、加藤勘十、秋田雨雀、江口渢、小牧近江、金子洋文、木村毅等、左翼分子並自由主義者ニ対し印刷物ヲ送付シ、本運動ニ参加方ヲ勧誘シ來リ、又今年八月ニハ極東調査團、名ノ下ニ英國上院議員ロードマーレー、白耳義、ブラッセル市助役アルベートマルトウヲ上海ニ派遣セリ、而シ

テ三等一行ハ本大会開催前我國ノ左翼分子ト連絡セントレ、八月廿一日神戸入港ニテ来朝セルカ、本大会ハ前述ノ性質、目的ヲ有スル、ミナラズ、之等一行ハ我國左翼分子ト第三イニタトノ重要連絡、目的ヲ有スル疑アリタルシ以テ我國ニ於ケルハ嚴重取締シナシタル結果、其目的ヲ達セシ上海ニ帰還セリ。

尚國內ニ於ケル左翼分子ハ右上海反戦大会ト相呼応シ、我國ニ於テモ日本反戦大会ヲ開催シ、國際反戦委員会日本支部、日本反戦委員会ノ創立ヲ企圖シ、其ノ支持團体トシテ新ニ極東平和の友の会並上海反戦大会ノ支持無産團体協議会等、所謂大衆団體ヲ組織シ、合法線上ニ在ル宗教家、学者、合法無産團体等凡

ニル大衆ヲ本運動ニ動員セシコトヲ策シ、又一方非合法分子、ミタ以テ上海反戦大会支持全国（地方）委員会ナル秘密組織ヲ結成シ、以テ本運動ノヘムモニ一確立、為ニ或ハ上海ニ代表者派遣、為ニ種々策動セリ。然ルニ本大会ハ前述ノ如キ性質並目的ヲ有スルモノナルヲ以テ之カ取締ニ当リテハ其ノ代表派遣、阻止ハ勿論、前述団体ノ組織竝会合モ絶対阻止、方針ヲ以テ嚴重取締ヲ厉行シタル結果、代表ノ派遣シ得サリシノミナラズ、其ノ運動モ所期ノ目的ヲ達セサリシ模様ナリ。而シテ其ノ後ハ合法線上、団体竝自由主義者等ハ本運動ヲ放棄セルモノ、如クナルモ、極左分子ハ執拗ニ引続キ日本反戦委員会ノ組織ニ

内シ策動シ居ル模様アリ。

### （三）取締状況

前述、如ク第三イニター系共産主義者ノ反戦運動ハ平和主義ノ基調トスル反戦運動トハ異リ、絶対ニ我国情ト相容レサルモノナルヲ以テ、從来ヨリ峻厳ナル態度ヲ以テ之ニ臨ミ、之等ハ集会並文書ノ發行配布等、表面的活動ハ絶対阻止スルト共ニ其ノ中心分子ノ検挙追及ニ努メ來レリ。然ルニ此等一派ハ其ノ實際活動ニ於テハ前述、如ク單ナル平和運動ナルカ如ク裝ヒ或ハ兵士竝其ノ遺族、切実ナル希望要求ヲ表面ニ掲ケ、以テ大衆ヲ本運動ニ動員セシコトニ努メシ、アルヲ以テ其ノ運動ノ目的並

性質、究明ニ困難ナル場合アルト共ニ、一面ニ於テハ之等、中心分子ハ全ク地下ニ潜入シ、數次ニ亘ル検挙ニモ尚屈スルコトナク執拗ニ残尙分子ヲ糾合シテ運動ノ経続シツ、アルヲ以テ之等一派、行動ニ対シテハ查察内偵ヲ嚴ニシ取締上遺憾ナキヲ期シツ、アリ。

#### 一、日本労農辯護士團ノ檢舉狀況

布施辰治、上村進ヲ中心トスル左翼辯護士一派ハ昭和六年四月下旬解放運動犠牲者救援辯護士團ヲ組織シ、更ニ昭和六年九月別ニ全農全國會議辯護士團ヲ組織シ運動中ナリシカ、昭和八年二月ニ至リ右兩辯護士團ヲ解消シ、日本労農辯護士團トシテ單一組織トナセリ。

而シテ其、實際運動ハ治安維持法違反事件ニ関スル辯護活動並小作爭議ニ關スル法律的援助等ヲ初メトシ日本共産党ノ外廓的活動ヲナシ來リタルヲ以テ注意警戒申ナリシ力法制ニ明ルキ彼等ハ巧妙ニ其ノ本質乃至目的ヲ陰蔽セル為取締上困難ラ感レ

未レリ。

然ルニ八年四月以来、日本赤色救援會ノ檢舉取調ノ進展ニ伴ヒ日本共產黨員ニシテ右辯護士團ノフラクトシテ活動シ来リタル角田守平址共產黨ニ資金提供ラナレタル辯護士團員谷邱直雄ヲ檢舉取調ノ結果、右辯護士團ハ就レモ共產主義運動ノ一翼トシテ法律的分野ヨリ闘争シ以テ日本共產黨ノ拡大強化ヲ目的トセル秘密結社ニシテ就中、昭和六年七月ヨリ東京地方裁判所ニ於テ開催セラレタル三・一五、四・一六事件中央部ノ公判ニ際レ獄内被告力所謂公判闘争ヲ以テ國家権力ニ対スル抗議ラナスト共ニ公判廷ヲ通シテ日本共產黨、行動綱領ヲ大衆ニ宣傳煽動セン

コトヲ企圖シツ、アルヲ知ルヤ、此等辯護士團員ハ辯護士ノ地位ヲ利用シ獄内被告ト當時ノ日本共產黨中央部間ノ連絡策應ニ努メ、獄内外相呼應シテ公判闘争ヲナサシメ又公判廷ニ於テハ辯護ニ名ヲ籍リ其ノ目的遂行ヲ援助セルコト判明セリ。

因テ八年九月三十日以来東京地方二十四名、大阪地方四名、名古屋地方一名、計二十九名ノ全員員ヲ治安維持法違反被疑者トシテ檢舉シ目下取調中ナリ。

左翼學生運動ト其ノ取締狀況

(一) 左翼學生運動ハプロレタリア青年運動ノ一翼ニシテ、從來學  
内ニ共產青年同盟學校細胞ト其ノ補助組織ヲ結成シ、學生ノ不  
平不満ヲ捉ヘテ之ヲ組織化シ、革命ノ際ニ於テハ一般學生ノ中  
立化ト革命的學生ノ革命ヘノ參加ヲ目標ニ運動ヲ進メ采リタル  
モノナルガ、昭和七年七月廿謂日本共產黨ノ新テーべ發表ト共  
ニ「學生大眾ハ革命ノ際ニ於テハ人民革命ノ一翼ヲ相當シ得ル  
モノナリ」と見解ヲ持ツニ至リ、從來存シタル學内ノ補助的  
組織（自治學生會、讀書會、文書班、赤松班等）ヲ廢シ原則ト  
シテ日本共產青年同盟第一主義ニヨリコトハ為シ、一專ラ學校細

胞、確立ニ努メツ、アリ。

(二) 右ハ主トシテ學内ニ於ケル學生運動、方針ニシテ、一方學外ニ於ケル運動ハ最近日本共產黨及共產青年同盟、打續ク檢舉ノ為人、經驗深キ指導者ヲ矢ヒツ、アリテ、之カ補充ニハ理論ト実踐トノ兩方面ヲ兼スル者ヲ必要トスルガ、之ヲホムルコト極メテ困難ナル狀況ニシテ、勢ニ理論的ニ優秀ナル學生ヲ重要視シ、學生元亦學内運動ノミニ止マラズ、更ニ党、同盟若クハ之等外團體、重要ナル機關ニ進ムシツ、アリ。

而モ之等學外ニ於ケル運動、指導者ハ其ノ大部分學内ニ於ケル開爭、經驗ヲ経タル後、順次其ノ上級機關ニ送リタル、実

狀ニシテ學内諸組織ヲ経過スシテ、單ニ個人的關係ヨリ學外運動ニ進ムスルモノハ極ムテ稀アル狀況ニアリ。從ツテ之が取締、是否ハ我國共產主義運動、消長ニ甚大ナル影響アルモノト云フベク、之ケ為、警察當局ニ於テハ文部省當局ト緊密ナル連絡、下ニ有効適切ナル取締ヲ加ヘツ、アリ。

(三) 本年五月京都帝國大學學生ヲ中心トシテ滝川教授休職及對運動起リタルガ、之ハ固ヨリ當初ニ於テハ左翼學生、策動ニ係レモノニアラザリジモ、東京帝國大學共產青年同盟學校細胞ニ於テハ奸個、開爭題目ナリトシテ、其後矯激ナル檄文ヲ配布シ、一般學生、蹶起ヲ促シ、殊ニ京都帝大ニ其ノ指導者ヲ送リ、

京帝大ニハ學校細胞滝川ビューラーヲ構成シ種々策勧シ居タルヲ  
以テ、關係警察當局ニ於テハ之等不穩分子ノ一齊檢舉ヲ行ヒ。  
策勧ノ余地ヲ與ヘザル様努メタリ。

### 日本プロレタリア文化聯盟（署称ツツ）ノ運動ト其ノ取締狀況

#### （一）現勢

本聯盟ハ昭和六年十一月裏ニ入露中ナリシ藏原惟人ガ密カニ  
帰朝シ日本共產黨上部ト連絡シテ創立セシモノナリ。創立當初  
ニ於テハ加盟團體十二團體ナリシガ、現在ニ於テハ日本プロレ  
タリア作家同盟、日本プロレタリア演劇同盟、日本プロレタリ  
ア美術家同盟、日本プロレタリア映画同盟、日本プロレタリア  
音樂同盟、日本プロレタリア寫真家同盟、日本プロレタリア科  
學同盟、日本プロレタリア・エスベランテスト同盟、日本戰闘的

無神論者同盟、無產者産児制限同盟（十一月廿二日解体届出）ノ十團

体總人員約三、七八〇名ナリ。

(二) 運動、経過

コツブ創立以前ニ於ケルプロレタリア文化運動ハ極左派ニ属性モノト異モ。所謂創作行動ニ重キヲ置キ、之等ノ運動ヲ通シテ共産主義、宣傳煽動ニ從事シタルモノナルガ。コツブ創立後ニ於テハ其ノ組織、基礎ヲ工場農村ニ求メ、文化サークル、活動ニヨリテ階級闘争ヲ強調シ、殊ニ創設者タル藏原惟人ハ文團体内ニ於ケル日本共産党並ニ日本共産青年同盟、フランクジョン、擴大強化ヲ圖リ極力党、影響ヲ文化運動ニ反映シメムト努

カセリ。

依フテ各廳府縣ニ於テハ嚴重ナル取締ヲ加ヘ、昭和七年中ニ於

テ治安維持法違反トシテ起訴セラレタル者五十七名ヲ算シタリ

(三) 最近、狀況

前記ノ如クコツブ、取締嚴重ヲ加フルニ拘ラズ、日本共產  
党、指導ニ依リテ、メムバー遂次增加、傾向ヲ示シワ、アリ。  
警視廳ニ於テハ深ク此、東ニ留意シ警戒ヲ急ラザリシ處、八年  
二月二十九日作家同監内日本共產党フランクジョン小林多喜二ヲ發見  
シ之ヲ逮捕、更ニ引續キ主要幹部、檢舉ヲ行ヒタルガ、其内小  
林多喜ニハ心臓麻痺ニテ死亡セリ。

然ルニコツブニ於テハ此、事實ハ所謂官憲、虐殺ニヨル、元ナリト宣傳シ、三月十五日ヲ期シテ勞農葬ノ計画ヲ樹テ葬儀、合法性ヲ利用シテ大衆ヲ煽リ、地區的全市的街頭デモヲ取行シ築地警察署ヲ襲撃セント計レリ。然レドモ警視廳ニ於テハ逸ク此、事實ヲ察シ固到ナル取締ヲ加ヘタル結果、事ナモラ得タルモ、機關紙其、他檄文、配布等ニヨツテ宣傳的効果發生シ組織的ニハ幾分其、強マリヲ見タルモノト認メラルベリ。其ノ後マルクス五十年祭記念日運動、一大記念日運動、メーデー開争等、相當激済ナル活動ヲ行ヒ、六月十八日ニハ前年ノ例ニ倣ヒ擴大中央協議會ヲ開催シテ大衆ヲ動員シ、日本共產黨、新

テ一ゼニ即シタル運動方針、決定ヲ為サントセリ。

因ツテ警視廳ニ於テハ當日會場附近ニ警察官ヲ配置シ嚴重ナル取締ヲ加ヘ、參集セル者、内ハ約二百名參集、五十一名ヲ檢束シ、更ニ一方銀座松坂屋附近ニ於テフデモノ撮影ヲ為サムトシ居タル日本プロレタリア映画同盟員數名ヲ檢束セリ。然ルニ之等一派ノ者ハ七月下旬ニ至リ、秘密裡ニ擴大中央協議會ヲ開催シ、方向轉換ト称シテ「米と土地と自由のための人民革命」レヲ強調シ、日本共產黨、新テ一ゼニ基クコツブ當面ノ任務ヲ決定シ、其、運動益々非合法、途ヲ辿リシ、アリ。而シテ最近ニ至リテハ本聯盟加盟ノ有力團体タル日本プロレタリア作家同

盟ニ於テハ「唯物弁証法的創作方法」問題及治安維持法改正問題、對策等ニ關シ内訌生ジ、一派、者ハ唯物弁証法的創作方法、無謀ト作家同盟、政治家活動放棄ヲ主張シ混乱ヲ采シツ、アルが、此、事實ハ本聯盟中央部ニ之反映シ最近、活動ハ稍々沈滯、狀況ニアリ。

#### 四 取締狀況

日本共產黨及日本共產青年同盟大眾化、為ニ活動ヲ續ケ、アル計謂外郭團体、取締ニ付テハ特ニ深甚、注意ヲ拂ヒ。コツ、ツブ關係ニ屬スル者ニ對シテモ院ニ治安維持法違反事件ニテ起訴シタル者九十八名（十二月一日現在）、ヲ算シタルが最近ニ至

リテハ文化團体内ニ於ケル黨同盟ノ活動ノミナラズ、單ニコツブニ屬スルブコレタリ亞文化運動、ミニ從事シタル者ニ對シテモ治安維持法ノ所謂目的遂行罪ヲ適用シ、其ノ範圍ヲ擴大シツアリ。

更ニ彼等、行フ各種、集會演劇、公開等ニ際シテモ、苟ク元治安ヲ棄ル虞アルモ、ニ對シテハ斷乎タル取締ヲ加ヘ才隙ヲ天與ヘザル様警戒ヲ加ヘツ、アリ。

## 一、神兵隊事件の概要

(一) 昭和八年五月頃以来、大日本生産黨、愛國勤労党等、急進青年幹部中行動容疑、眞跡ナカラザル者アリシテ以テ、警視廳當局ニ於テハ極力之レガ視察内偵ヲ進メツ、アリタリ。

(二) 深夜：七月十日夜明治神宮表参道沿ヒ神宮講會館ニ民名ヲ詐称セル青年約五十名ノ止宿シ居レル事實ヲ發見シタルト以テ一應、取調ヲ為シタル所、當初ハ『明十一日明治神宮ニ國防並困難打開ノ祈願ヲ為スベク參集セル』旨ヲ申立テ居リシモ追及ノ結果終ニ、明十一日ヲ期シテ五、一五事件ニ類スル不穏行動ヲ敢行スベキ目的、下ニ集團シ居リシモノナリシコトヲ自供スルニ

至レリ。

(三) 本不總計畫ハ大日本生產党、青年幹部派タル鈴木善一、奥戸足百、庄岡駿、影山瓜治、愛國勤勞党幹部天野辰夫、前田虎雄等ガ中心トナリ劃策シタルモノニシテ、表面ハ前記ノ如ク明治神宮及靖國神社ニ「國防並國難打開祈願」、合法運動ヲ為ステフ名下ニ在京及地方、所謂右翼急進青年分子ヲ糾合シ内約三百名ノ尖銳分子ヲ選出シテ「大日本神兵隊」ナル名稱ヲ附シタル三組ノ行動隊ヲ組織シ東京市内、擾乱ヲ圖ラントシタルモノナリ。

(四) 而シテ該行動隊ハ七月十一日正午頃警視廳及首相官邸ニ對入

ル飛行機ニ依ル空中爆撃ヲ企圖トシテ、第一番隊ハ警視廳ヲ襲撃シ帝都ノ治安維持ノ不能ナシシメ、第二番隊ハ閣議中ノ首相官邸ヲ襲撃シテ閣僚全部ヲ擄殺シタル後勵業銀行ヲ襲撃占據シ、第三番隊ハ市内擾亂及暗殺隊トシテ各政黨本部ノ襲撃、政党、首領、特權階級等、將殺、市内要所へノ放火、其ノ他血盟闘争件公判開廷中ナル場合ハ裁判所ヲ襲撃シテ井上日召以下ノ被告ヲ奪還スル等ニ依リ以テ帝都ヲ擾乱、巷ト化シ、戒嚴下令、余儀ナキニ導キスワシテ戒嚴令下ニ於テ彼等ノ希求セル所ノアツシヨ的新政權ヲ樹立セントシタルモノニシテ日本刀百八振、拳銃九挺、實包五百十八發、放火用具多數等ノ兇器具、他ヲ準

備シ、本計畫ニ依ル目的遂行不能ノ場合ハ割腹自殺ヲ申シ合ス等決死的計畫ヲ樹立シ居タルモノナリ。

(五) 本事件関係者ノ大部分ハ七月中に於テ檢舉シ得、目下東京地方裁判所檢事局ニ於テ取調中ナルガ、其ノ後豫備役陸軍中佐安田鐵之助、豫備役海軍中佐山口三郎（事件當時追浜航空廠飛行實驗部首席部員）其、他中島勝次郎等モ本事件ニ關係アリシコト發覺シ何レモ十一月七日迄ノ間ニ檢舉セラレ内五十四名ハ既ニ殺人及放火豫備罪ニ依リ起訴セラル、ニ至シリ。

(六) 一方從來、取調ニ於テ各被疑者ハ資金關係及空中爆擊ノニ莫ニ付テハ何レセ堅クロヲ識シテ其ノ真相、供述ヲ迴避シ居タル

が最近ニ至リ之等ハ、關係モ漸次判明シツ、アルモノ、如シ。

(七) 以上、如ク本事件ハ五、一五事件ニ比シ相當大規模ノ不穏計劃ナリシガ警察當局ノ同密機微ナル活動ニ依リ行動着手ノ寸前ニ於テ檢舉シ一大不祥事ヲ未然ニ防止シ得タルハ知家、為メ幸

慶トスル所ナリ。

一、救國埼玉青年挺身隊事件、概要

昭和

八年夏頃以来埼玉縣下熊谷地方ニ於ケル右翼急進青年分子ノ行動ニ容終ノ矣アリ、全縣當局ニ於テハ極秘裡ニ之レガ視察收偵ヲ進メツ、アリシカ、偶々九月中旬頃愛知縣當局ニ於テモ「熊谷地方ニ於ケル右翼急進青年分子ノ不穢計画伸展シツ、アル」模様ヲ偵知セル旨、情報アリタルニ依リ爾来埼玉縣ハ愛知縣及警視廳等ト緊密ナル連絡、下ニ銳意内偵ヲ進メツ、アリシ所果然、之等一派ハ十一月十四日ヲ期シ左記不穢計画ヲ敢行セントスルニ至レルコトヲ偵知シタルヲ以テ全月十三日拂曉ヲ期シえが開係者ノ一齊挙擧ヲ爲スニ至レリ、且下專ラ取調中ナルが現在

此二判明セル事件、概要次、如シ。

(一) 本事件ノ中心人物ハ本年三月拓植大學ヲ卒業セル吉田豊隆當二十三年ニシテ、同人ハ在學中ヨリ救國學生同志會、救國學生同盟(昭和七年五月結成)、皇國青年芳流會等ニ加盟シ右翼運動中、本年一月頃ヨリ歩兵第一聯隊(現牛糞載車隊第二戰隊)栗原安秀中尉ノ指導ニヨリ「直接行動ニヨル國家改造運動」ニ參劃スルニ至レリ。

(二) 然シテ吉田ハ拓大卒業後御墨埼玉縣熊谷市ニ帰リ于農村青年等ノ間ニ同志數名ヲ獲得シ爾來右栗原中尉ヲ最高指導者ト仰キ、非合法的副策ニ奔命シツ、アリシガ、栗原中尉ハ吉田等ニ対シ

屢々「最後的蹶起」時機切迫セリ等、待機的指令ヲ發シ其節度吉田一派ヲシテ勇躍緊張セシメタルモ、遂ニ事ニ擧ゲルニ至ラズ、斯ラズ吉田等ヲシテ失望焦慮セシメツ、アリタリ。加之最近ニ至リ吉田ハ栗原中尉ヨリ疎ンセラル、ヤノ情勢アリシ爲栗原ニ對スル不満モ加ハリ、場合ニヨリテハ栗原中尉ノ計劃シツ、アルヤノ運動トハ別箇ニ、吉田ノ腹心タル熊谷組ノニ可以テ昭和維新ノ導火線トモナルヤキ事案ヲ劃策セントスルニ至レリ。

(三) 嶄々十一月十四日埼玉縣川越市ニ於テ開催セラルベキ政友會閏東大會ニ、政友會總裁鈴木喜二郎ノ出席アルベラ聞知ニタル

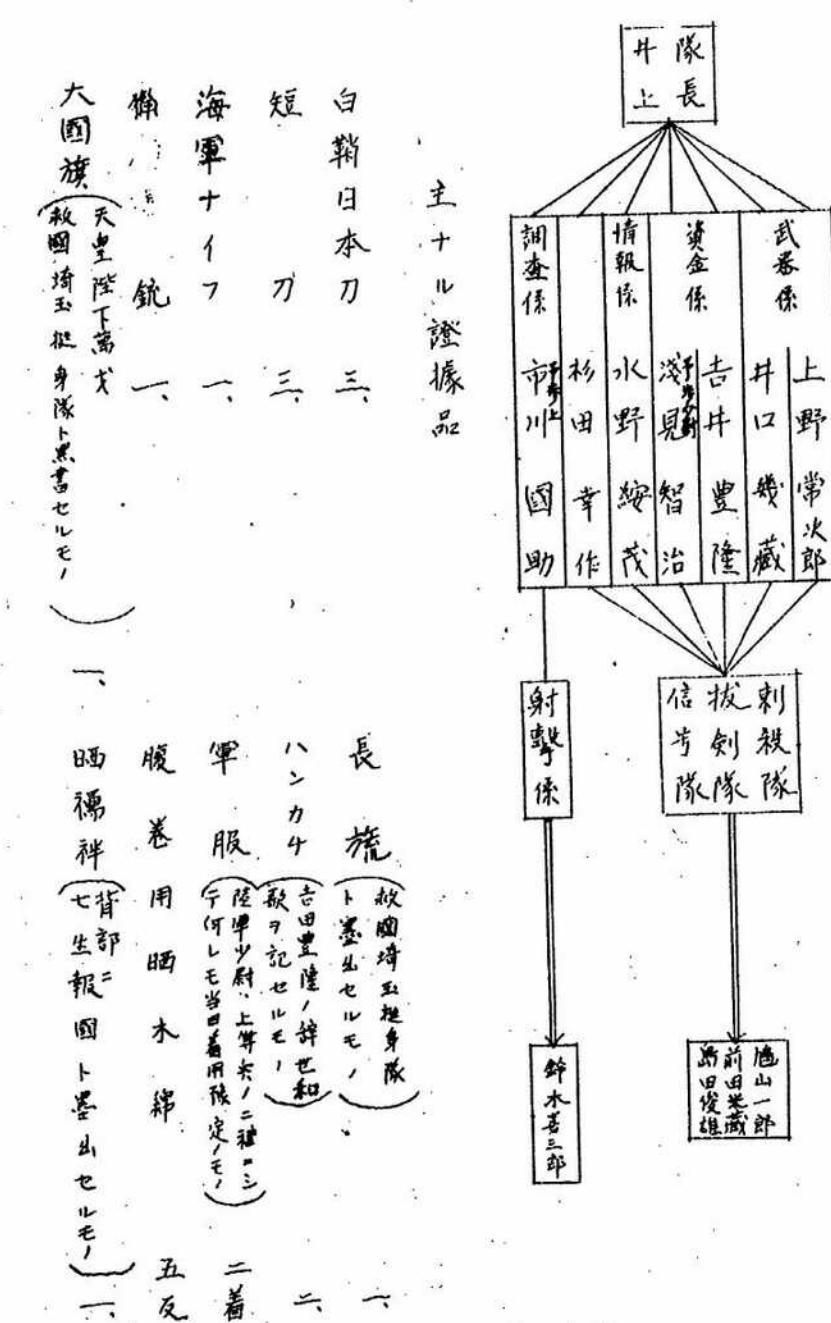
吉田等ハ好機至レリト爲シ同月十日夜急遽同志會合シ「既成政黨打倒」意思ヲ明示スル爲ニ鈴木以下ノ政黨要人ヲ暗殺ニ以テ昭和維新ノ導火線タラシコトヲ期シテ救國埼玉青年挺身隊ヲ結成シ左表、如キ隊、編成及攻撃目標ヲ確定シタリ。

然シテ決行後ハ、更ニ熊谷市内、銀行及同市外、在郷軍人射的場等ヲ襲撃シテ資金並ニ武器ヲ強奪シタル上、自動車二台上京シ、特權階級及賊闘、代表人物ヲ殺害シタル後、二重橋前二千割腹セント計劃シ翌十一日ニ亘り兇行用籠鎗、日本刀、及辯世家文、大國旗等一切、準備ヲ完了シタリ。

(4) 右事實ヲ偵知シタル埼玉縣當局ニテハ浦和地方裁判所檢事局

、指揮ヲ受ケ、警視廳トモ連絡シテ同月十三日拂曉ヲ期シ閑保者、一齊梭撃ヲ爲シ不穏事件ヲ未然ニ防止シ得タル所ナルか、本事件、被疑者吉田以下七名ハ十月三十日浦和地方裁判所ニ起訴豫審ニ附サレタルガ、銃上、事由ニヨリ本事件以外ニモ何等カノ陰謀伏在スルメ、疑妙カラガルヲ以テ閑係各廳協力シテ引續取調中ニヤリ。

敵國崎玉青年挺身隊編成及暗殺目標



一、 守衛運動と守衛争議、狀況及び取締方策

(一) 守衛運動の概況

昭和八年六月末現在、於ケル我國合法守衛組合數八九百四十組合員數八二十六万八千四百七名、内女一八〇九四名、ニシテ我國守衛者總數一平年六月末現在一四百八十八万一千九百五十九名、内女一五一八、四三三名。二二对シ其組織率八僅カニ七、五八一七ントドリ。之ヲ七年十二月不ニ比スレバ組合數ニ於テハハ、増加ヲ不セル。毛組合員數ニ於テハ九千二百二十三名、減少ヲ見タリ。這ハ一般守衛者、組合運動ニ對スル信頼薄ラギタル為メト日本主觀運動者、拓頭ニ依リ戰線混亂セル為メキニモノト

察セラル而シテ之が分野ヲ見ルニ日本主戰派、國家社會主義派、石  
翼派、中間派、左翼派、共政府主戰派、並ニ極左派タル非法、日本勞  
働組合全國協議會等对立シ思想的立場ト政治的見解、相違者ヨ  
リ其戰線ハ極メテ複雜混亂タル實情多呈シツ、アリ就中從來中  
間派ト目丁レツ、アリタル元ノハ近時其大半ハ右翼ニ一部ハ左  
翼ニ成リ純然タル中間派ト目サル、元ハ極メテ少シ更ニ漢政  
府主戰派不ニ屬スル諸團体毛道財勞力衰頽、傾向ト此リツ、アリ  
テ今マ全ク大勢ニ何等ノ影響ヲ及バハル迄ニ凋落ヲ見ルニ至  
レリ、而シテ最近ニ於ケル主ノル運動狀況ヲ見ルニ近來工業界  
就中單品關係、工場等ハ政府、施政ト相俟ツテ相當好況ヲ呈  
シツハアル為メト一ツハ日本主戰運動、拓頭等一因ル戰線混亂

、為メ方労争議肇生件數、如十八別項記載、如ク七年ニ比シ激  
減、實情ヲ不レツ、アリ又近來增昂、觀アリタル戰線統一運動  
ハ七年九月結成セル日不労働組合會議ハ八年二入り東京瓦斯産  
業労働組合ハ六五〇。名ノ、加盟ヲ見當初ノ目的達成、為メ努  
カレツ、アル外不會議ニ对立シテ八年五月關東方面ニ於テ合法  
労働組合、愛國運動ハ八年二入り益々増昂ヲ不レタル觀アリ即  
チ八年五月國家社會主義ヲ標榜シテ結成セル日本労働同盟ハ六

後幹部間ニ日本主裁ニ轉向スル者続出しシハ年八月ニ至リテ分裂  
シ石川島自彌組合ヲ中心トシテ結成セル國防獻金方効協會ハ今  
年六月日本主裁方効團体、戰線統一、為メ之ヲ改組シテ日本主  
業効効俱樂部ヲ結成シ並及同志會長赤松克磨等ハ日本主裁ニ轉  
向シ並及同志會ヨリ分裂シ日本進信從業員組合ヲ結成セリ其  
他各地ニ於テ日本主裁ヲ信條トスル家効組合ノ組織或ハ同主裁  
一轉向スル者續出、傾向ニアリ又日本効組合總聯合海軍効  
聯、造船効聯、赤石異團體<sup>(有力)</sup>等頭ニ中間元翼、諸團体ニ至ル  
選舉ツノ國防獻金飛行機、兵器獻納運動ヲ展開シ或ハ從未ノメ  
ハ一ハ我國情ニ即セザル亡國的ノモノナリトシア之レニ參加テ

拒否シ或ハ之レニ代ルニ復國家効聯ハ例ヘバ四月二十日天長  
節當日東京ニ於テ約二千五百名、大阪ニ於テ約一千二百名、参加  
ヲ以テ敢行セルハ如シ一等ヲ举行シタル等ハ最も顯著ナル事例  
トス。

要人ルニ近時ニ於ケル合法方効運動ハ漸次穩健者實化シツ  
アル現象ヲ有取セラル、尚極元翼一非合法ノ日本効組合全國  
協議會一派ハ依然執拗巧妙ナル潛行運動ヲ続ケツ、アルコト別  
項ニ記シタル所ノ如シ。

## (二) 守衛運動取締対策

極左非合法一派ハ全場ニ對シテハ勿論合法團体ニアリテ正

苟シクモ國法ヲ眞視シ不穏煽激、行動ニ出テ又ハ出ジムトスル者ニ対シテハ法ノ命ヅル處ニ蓮ヒ嚴重ナル警戒取締ヲ加ヘ彼等ヲシテ才毫毛矯激ナル行動ニ出ヅル間隙ヲ興ヘザル様努メツ、アリ。殊ニ近時盛ニナリツ、アル日本主義或ハ國家社會主義等、裸傍スル方勦事件中ニハ痕面種々、大名ノ下ニ勤々エスレバ國法ニ背馳シ不逞、行動ニ出テハトスルモノナニシモ非ズ之等、徒輩ニ対シテ元前記全様適功ナル取締警戒ヲ加ヘツ、アリ。

### (三) 方勦争議ノ状況

#### 11) 方勦争議ノ件生件数

昭和六年中ニ於ケル方勦争議件生件数ハ六四九七件一争議參

加入員一五六八九五名一ナルが昭和七年中ニ於テハ六二一七件一争議參加入員一二三、三一三名一トテ九二八〇件ノ減少ヲ示セリ。更ニ八年一月ヨリ九月未迄ニ於ケル争議件生件数ヲ観ルニハ二七一件ハ参加人員八〇、二八一名一ニシテ之レヲ昭和六年同期ニ比スル一割三分弱又昭和七年同期間ニ比スレバ一割七歩強ノ激減トアレリ。

#### (四) 要事項

方勦有ノ争議要不平項ヲ考察スルニ次表ニ於テ明ナル如ノ  
昭和六年ヨリ八昭和七年、昭和七年ヨリ八八年ト漸次其ノ要不平  
項ハ消極的ヨリ積極的ニ移リツ、アリ。即チ換言レバ昭和六  
年置

年頭迄ハ官効者側ハ、半勝的立場ニ於テ争議ニ臨ミツ、アリシガ此一情勢ハ昭和七年初頃より漸次攻勢的立場ニ於テ争議ヲ惹起スルノ傾向テ示スニ至レリ。此ノ傾向ハ未だ全般的トハ謂ヒ得ザルモ少々ト元部分的ハ經濟界、好況ヲ示セル事ノト思件セラル。

### 官効争議、要件事項比較表

年 次	増減 額	要 件	年	
			八 月 九 月 不 日	大 正 平 成 年 月 日
四 二 五	- 二 五	額 額 及 及 減 減 支 支 貸 貸 金 金	四 一 八	一 一 八
六 八	- 四 一	額 額 及 及 減 減 支 支 貸 貸 金 金	六 一 九 大	一 一 九 大
一 一 四	- 一 五 七	額 額 及 及 減 減 支 支 貸 貸 金 金	一 一 四	一 一 九 大
一 一 六	- 一 六 二	額 額 及 及 減 減 支 支 貸 貸 金 金	一 一 六 二	一 一 九 大

### (3) 分効争議二件ノ犯罪件数合併表

最近一部經濟界、好況ト非常時憲議、渗透トハ官効者ノシテ争議ニ際シ慎重且ソ穏健ナル態度ヲ以テ賜マシムルニ至リ犯罪件数ノ減少ハ争議件数ノ減少ニ比シ更ニ著シテモアルヲ認メ得、即テ昭和六年中、犯罪件数八三〇一件六三九二名ナリシケ昭和七年中、於テハ二二一件、七九六名ニシテ九〇件五九六名ノ減少ナレリ。然ルニ八年九月末迄ニ於テハ五八件四八二名ニシテ之レタ昭和六年同期間ニ比スル二件数ニ於テハ七割五歩弱人員ニ於テ六割六步弱ノ激減トナリ更ニ昭和七年同期間ニ比スル二件数ニ於テ六割四步強人員ニ於テ六割四分弱ノ激減

トアレリ。

(四) 宮効争議、取締

最近ニ於ケル宮効争議、概況前項、如クナルガ宮効争議ハ宮  
間ノ経済斗争ナル以上其ノ目的、範囲内ニ於ケル合法且徳健  
ナル手段ニ依ル行動ニ対ニテハ敢々必要以上ノ干涉取締ヲ加フ  
ルが如キコトナク可及的迷ニ解決ニ導クベシ努力スト雖モ苟ニ  
非合法手段ニ訴ヘ又ハ宮効争議ノ目的ヲ没却シテ之ノ政治斗争  
ニ展開ヒム企圖シ或ハ施激ナル主義思想ノ宣傳ノ為リハトス  
ルハ如キモニ一対シテハ夫多法、命スル度ニ遭ニ假借ナキ峻嚴  
ナル取締誓戒ヲ加ヘ以テ万違算ナキヲ期シツ、アリ。

一 農民運動並小作争議、傾向及ビ之レガ取締状況

(一) 小作争議、傾向並取締状況

小作争議ハ農民運動、最も旺盛ナリニ大正十五年ニ八二〇二  
九件、多キヲ數ハシ元、其後農民組合、活動不振ニ原因シテ昭和  
二、三年頃ハ一時緩和ヒリ。然ルニ昭和五年以降、農村不況ハ農  
民組合、活動如何ニ拘ラズ再ヒ小作争議ヲ增加シシ、昭和六年  
ニ於テハ過去十数年間、新記録タル六二三一件、蒙テテ算セリ。  
昭和七年ハ六〇八三件ニシテ前年ニ比シ約一五〇件ヲ減少シ稍  
小底ヲ得タリシハ如キ、昭和八年ニ至リテ更ニ激増シ、八月未現  
在ニ於テ已ニ一八五四件、多キヲ數ヘ之レヲ昭和六年全期ノ一

三〇一件昭和七年分明ノ一三一一件ニ比スレバ何レモ四割強ノ  
増加ヲ示セリ。

斯ノノ如ク、小作争議ハ最近數年ニ著シテ增加ノ傾向ヲ辿リツ  
、アル一面、之レヲ眞的ニ見ル。毛争戻川上地問題ニ集中シテ益々  
紛糾深刻化シツ、戸ル現況ノリ。即チ数年前マダノ争議ハ概不  
小作科ノ減免問題ヲ中心トスル單純ナル經濟的紛議、範囲ニ止  
マリシが近年地主、態度攻勢的トヨリア土地ノ返還ヲ要スル  
者多ナラ加ヘ、昭和二年頃僅ノニ争議總件数ノ九八一ビントニ過  
ギザリシ土地問題、中心トスル争議、昭和八年ニ於テハ六千八  
八一セント、多キヲ數ヘ、争議ノ約七割ハ土地問題ヲ中心トシテ

相争フニ至リ今ノ争議ハ所有權對制作准、次第的斗争ノ域ニ入  
レルノ觀アリ。

之レガタゞ、争戦手段ハ看シノ非合法化シテ大衆的直接行動ニ  
ヨリ目的貫徹ヲ圖ランツル、風ヲ馴致シ暴行脅迫等、行ハル  
ハ場合跡シト也。警察が嚴重ナル取締ヲ加ヘツ、アルニ乞拘  
テバ末ダ犯罪、跡ヲ絶クバシテ毎年千名以上、犯罪者ヲ出シツ  
、アル事實ハ此ノ間ノ消息ノ確証ニ物語ルモノアリ。

警察ハ以上ノ如ク傾向ニ鑑ミ争議、推移ニ注意スルト共ニ具  
、真相ヲ究メア適正安當ナル取締ヲ加ヘ、一面争議、解次及未然  
防止等ニツキアモ弊害ノナリ限リ關係當局ト協力シテ監カレ最

年	次	年	總行數	件	上地引上具他小作物保半產賦
昭和二年	一、三、四、四	八年	九十九	一、二、五	總行數荷久爾割合
四年	一、口、九、九	七年	一、五、口、一	一、八、七	保半產賦
五年	一、七、一、三	六年	一、九、一	一、七	荷久爾割合
六年	一、口、八、三	五年	六、三、口	二、六	保半產賦
七年	一、二、三、一	四年	八、大、几	三、七	荷久爾割合
八年	一、八、五、四	三年	四、一	大、八	保半產賦
九年	一、口、八、三	二年	一、九	一、九	荷久爾割合
十年	一、二、大、三	一年	一、九	一、九	保半產賦
八年不現	全	八年	一、九	一、九	荷久爾割合

土地問題を中心とした争議問題

小作單議增減綱

村、平和ト秩序維持ノタメ萬然ノ策ヲ講シツ、アル所ナリ  
庄ニシテ、誠増減ノ状況土地問題ノ中心トスル争議増加ノ状況、  
誠ニ伴フ犯罪検舉状況ヲ表不入ベシ。

小作争議二件ノ犯罪検舉調

年	次	檢举件數	檢举人員
大正十四年	九四	一六六	八〇七
大正十五年	一六八	一一八	四三五
昭和二年	一六二	一六二	五一一
昭和三年	一七〇	一七〇	一〇九
昭和四年	一七五	一七五	三五一
昭和五年	一六四	一六四	一〇七
昭和六年	一七〇	一七〇	一〇七
昭和七年	一三四	一三四	五五三
(九月未現件)	九六	九六	一七
備考	昭和七年ニ於ケル九月未現件ハ九七件セビシ八十		

(二) 農民組合運動ノ傾向並取締狀況

農民組合ノ活動ハ昭和一年以降ニ於ケル農民組合ノ戰線不統一ト共産党檢举ノ影響ヲ蒙リテ者シテ不活潑トナリシガ昭和五年後ノ農村不況ノ深刻化、満洲事變ヲ契機トシテ昭和シタル國家主觀運動ノ進展其他所謂非常時內外諸状況ノ利弊影響ニヨリ、相當有シ一情勢ノ変化ヲ示シテ左翼組合ヨリハ社石派ノ右翼組合ヨリハ極右派ノ生ジ何レニ農村ノ不安動搖ニ乘ジ不軌ラ企アントスル傾向ヲ生スルニ至レリ。

即チ從未我國農民運動ノ指導的地位ニアリシ全國農民組合ハ、共産主觀乃至ハ左翼社會民主々觀ヲ指導精神トナシ左翼的色彩吾

相當時事ノリシト雖云之ニ、全体的ニ見ルト一ハ未だ極ムニ偏人  
ルコトアリ。合法實業政黨、支持シテ合法的活動ニ終始シ。日本共  
産黨ニ加盟シ、又ハ其ノ影響下ニアリノル極ムニ分子ハ其ノ數極メ  
ア少數ニシテ其ノ努力振ハゲリシが昭和六年八月、全國農民組合  
ノ合法的活動ニ携エザル極ム分子ノ割ニ全農全國會議ノ組織シ  
ノ公然革命的農民組合ヲ自称シ。日本共產黨、指導下ニ革命的農  
民運動、大眾化ニ努ムルヤ。全國農民組合員、約半數ハ其ノ下  
一走リテ一指導努力ヲシタルタメ。我國農民運動ハ全農全國會  
議ノ結成ノ轉期トシテ頃ミニ論激化ハルニ至レリ。此ノ事實ハ  
雪ニ川作甲誠ノ激化ノ招キタル、ミテラズ農民組合員中ノ治安

維持法違反者ノ激増シテ、昭和五年頃、丁七八名ヨリ昭和七年  
ハ一躍六十九名、多ニ一上一更一昭和八年、於テハ九月未現在  
アリニ百十八名、多ナ算タルニ至リシ事實ニ微シテ明ケテ  
ル所トリ。此ノ反面ニ於テ右翼組合タリシ日本農民組合ハ嘗テ  
ハ社會民衆党ヲ支持シ社會民主ノ義ヲ指導精神トシ广運動ヲ進  
メツ、アリシハ滿洲事變後急遽ニ崩滅シタル國家主義乃至ハ國  
家社會主義運動ノ影響ノ穴ケテ組合員、大部分ハ昭和七年四月  
國家社會主義ニ轉向シ社會民衆党、支持ヲ取消シテ創立、日本國  
家社會黨ヲ支持入ルニ至レリ。然ル。其後更ニ極端化シテ昭和  
八年一月開催ノ第二回全國大會ニ於テ八昭和維新附行ノメ、

里道政治、確立ト國家統制經濟、確立ニ向ツテ邁進スベハ事ヲ  
決議シ越エテ六月二八日ノ國家社會完、指導精神ニモ商謀ノズ  
トナシ再び同完、支持ヲ取消シ在御軍人等ヲ以テ組織巴ル里道  
會ノ支持シテ目下所謂共農一致、農民運動ノ農間シツ、アリ。  
以上、如ノ最近、於ケル農民運動ハ殊不、其トハ者シク趣  
ヲ異ニシ、極左ニ偏シタル極左農民運動ト極右・走リタル極右農  
民運動トノ斯分明ヲ現出シ矣、主張何レ毛端激ニシテ之レカ  
動靜ニツキテハ注目ヲ要スベアリ、跡シト也。

茲ニ於テ警察ハ大々周密ノル視察ヲ行フ、ト大々嚴重ノル取締  
ヲ加ヘツ、アルガ特ニ全農全國會議、内シテハ最も嚴重ノル取

締ク加ヘ就中日不共産完ニ加盟シ又ハ其ノ指導下ニ活動ビニト  
スルが如ク不純分子ハ依舊スル所ノク検举ヲ策動、余地ヲ與  
ヘガル様努メツ、アリ。之レガタメ全農全國會議、組織ハ最直  
瀕滅ニ瀕シツ、アルが如イハ其ノ内部ニ合法轉化ヲ主張スル  
有濟派多「ノルノミノラバ再建運動期ク具體化シ近ク全國  
大會ヲ開催シテ一大轉向ヲナントスルノ状況ニシテ之ヲ推移  
ニツキアハ注意申ツ。

一、高松地方裁判所、裁判ニ對スル全國水平社抗議  
運動並其ノ取締狀況

(一) 事件ノ發端

本年五月二十五日香川縣高松地方裁判所ニ於テ同縣香川郡鷺田  
村馬場古物商山本雪太郎當三十八年、同郡同村古物商久本米一  
富三十二年、結婚事件ニ就キ公判開庭セラレタルガ、其際白水  
檢事、論告中差別的ノ言辭アリタル爲メ同公判ヲ傍観セラ水平  
社同人ガ吾々ニ對スル甚ダシキ侮辱ナリトシテ憤慨シ、全會水  
平社香川縣聯合會馬場支部ニ於テ先づ鉄彈、烽火ヲ擧ゲルニ至  
リタルモノナリ。

(二)

## 糾弾運動ノ状況

### (1) 全國水平社香川縣聯合會，活動

同聯合會ニ於テハ五月二十八日緊急執行委員會ヲ開催シ糾弾方針ニ就キ協議シタル結果對策委員會ヲ設置スル。トニ次シ爾來數回ニ亘リ議ヲ凝シタルモ硬軟兩派アリテ容易ニ方針決定ナ見ザリシガ結局硬派勝ヲ占メ、各部落ニ於テ糾弾演説會ヲ開催スルコト、裁判ニ身分的差別ヲ爲サバルコトヲ確保サル、マデ果敢ナル闘争ヲ持續スルコト、關係司法官ノ徵戒ヲ求ハルコト、ノ三項ヲ決議セリ。其後同縣下主要地ニ於テ演説會ヲ開催シテ輿論ノ喚起ニ努メ、一面全國水平社總本部

ニ事件ヲ報告シ應援ヲ求ムル處アリタリ。

### (2) 全國水平社總本部ノ活動

#### (1) 糾弾開爭方針，決定

同總本部ニ於テハ香川縣聯合會ヨリ事件ノ報告ヲ受ケ、六月二十四日中央常任委員会吉武浩太郎外一名七月一日同北原恭作ヲ現地ニ派遣シ運動ノ指導ニ當ラシメタリ。同三日常任委員會ヲ開催シ、北原、吉武ヨリ檢事論告ノ内容及豫審終結決定書ニ同様差別の字句ヲ使用セルコト等ヲ報告シ對策協議、結果、本問題ハ從來ノ差別事件トハ其ノ趣ヲ異ニシ身分的關係ヲ誇揚罪構成ノ要件ト爲セルモノニシテ、法

律ニ依リ公然ト蔑視差別ヲ認ヌタル差別裁判タルコト明白  
ナルヲ以テ徹底的ニ糾弾スルコトニ決シ、闘争形態トシテ  
各地ニ部落委員會ヲ組織シ、(一)差別裁判ノ判決取消(二)犠牲  
者山本・久本ノ即時釈放(三)關係司法官懲戒處分要求ヲ中心的  
闘争題目トシテ、司法大臣、檢事總長ニ對スル抗議東清、  
大衆的署名運動、演説會ノ開催、檄文等ノ配布ニ依リ闘争  
スルコト、闘争基金ヲ勢力的ニ募集スルコトニ決定シ、直  
子ニ各所屬團体ニ對シ右闘争方針ニ基ニ沿スル闘争ヲ展  
開スベキコトヲ指令セリ。

(ロ) 糾弾運動ノ指導

六月十七日糾弾闘爭特別委員會ヲ開催シ大阪外二府七縣ニ  
糾弾闘爭實行委員會ヲ組織スルコト及地方オルグヲ派遣ス  
ルコトニ決定シ、直ナニ之ヲ實踐ニ移シ運動ヲ指導シ或ハ  
檄文等ヲ發シテアゴブロセル爲メ各地方ニ於テモ之ニ相呼  
應シテ演説會ヲ開催シ或ハニエース檄文等ヲ發シ全面的ニ  
活動ヲ開始スルニ至レリ。

(ハ) 高松地方裁判所差別裁判糾弾闘爭全國委員會(略称高裁  
全國委員會)ノ設置

八月九日糾弾闘爭特別委員會ヲ開催シ本運動ハ殆ド全国的  
ニ波及シ且相當永續性アルヲ以テ總本部ニ高裁全國委員會

ヲ設置シ各地方ニ同地方委員會ヲ設置シテ緊密ナル連絡統制ノ下ニ執拗ニ果敢ナル闘争ヲ爲スコトニ決定セリ。

(二)全國部落代表者會議ノ開催

糾彈闘爭特別委員會ニ於テハ八月二十八日(解放令發布日)ヨ期シ、大阪市天王寺公會堂ニ於テ全國部落代表者會議ヲ開催シ、出席者福田縣代表石川那市郎三府二十一縣百三十一名ニシテ他ニ傍聴者五百余名アリ、松本治一郎議長トナリ試案「差別糾彈闘爭方針」附議シ高嶽全國委員會ヲ結成スルコトニ決シ、委員長ニ松本治一郎、委員藤原権太郎外十七名ヲ選任セリ。尚九州、山口、廣島、岡山、

兵庫、奈良、大阪、京都、和歌山、福井、香川、徳島、岐阜、三重、愛知、關東ニ地方委員會ヲ設置スルコト、セリ。

(3)各地方委員會ノ運動狀況

(1)香川地方委員會

同委員會ニ於テハ全水總本部貞千崎富一郎等ノ應援ヲ得テ部落代表者會議、三豐郡部落代表者會議、香川郡部落代表者會議、香川縣部落民大會及其他二十數回ニ亘リ糾彈演説會ヲ開催シ或ハニユース、檄文ヲ發シテ輿論ノ喚起ニ努ムル處アリタリ、而シテ此ノ間請願代表塩田正雪外一名、見送リニ當リ物議ヲ醸シ傷害事件ヲ惹起シ六名送局セラレ又

十月二十五日請願代表ノ報告演説會ニ於テ弁士朝倉武夫、  
井論ニ對シ陳述ヨリ制限ヲ加ヘタルモノ之ヲ肯ゼバ喧嘩シ遂  
ニ集會ノ解散ヲ命ぜラレタリ、其ノ際警察官ニ暴行傷害ヲ  
加ヘ尚職務ノ執行ヲ妨害シタル事件發生シ關係者多數檢舉  
セラレタリ。（本件ハ別ニ記載ス）

(口) 其ノ他ノ地方委員會

大阪外六五地方委員會ニ於テハ總本部ノ指令ニ依リ演説會  
ノ開催、ニエース、ビラノ發行等ニ依リ專ニ興論演説会ニ  
努メ、抗議署名運動、闘争基金ノ募集ニ全力ヲ傾注シ活潑  
ナル運動ヲナセリ。

(4) 請願行進隊ノ組織並行動

(1) 抗議陳情計劃ノ樹立

八月二十九日禹裁全國委員會ニ於テ司法大臣、檢事總長ニ  
對シ抗議陳情ノ爲請願行進隊ヲ組織シ署名帳ヲ携ヘ上京ス  
ルコトニ決定シ、其後具体的計畫ヲ樹立シ「請願行進組織  
大綱」（隊ハ四百五名ヲ以テ組織ス）（福岡市ヲ出發地ト  
シテ徒步行進ヲ開始シ途中各府縣代表者ハ順次之ニ參加ス  
ル事、各地ニ於テ演説會ヲ開催シ氣勢ヲ擧ゲツ、約二ヶ月  
後着京、豫定、輸送迎闈ノ組織、請願行進支持ノ會、組織  
等ニ就キ記載セルモノ）ヲ發表シ各地方委員會、準備活動

ヲ促ス處アリ、況月二十三日福岡市ヲ出發スルコトニ決定  
ヲ見タルヲ以テ福岡縣當局ニ於テハ同行進運動ハ公安ヲ害  
スル虞レアリト認メ全國水平社中央執行委員會議長松本治  
一郎及九州聯合會幹事ヲ招致シ、同運動ハ公安ヲ害スル虞  
レアルヲ以テ中止スル様諭シタルニ之ヲ諒トシ其ノ後計畫  
ヲ變更シ列車ニ依リ十月一日出發スルコトトセルヲ以テ、  
同縣ニ於テハ再度右幹部ヲ招致シ運動方法ニ就キ種々制限  
ヲ加ヘタリ。

(iv) 隊員上京ノ模様

十月一日九州地方委員會代表松本治一郎外九名ハ福岡市ヲ

出發シ途中順次各地方代表一石乃至二名之ニ参加シ、又阪神  
ニ於テ全體會議ヲ開催部隊ノ端旗ヲ爲シ陣容ヲ整備セリ。  
一行八小倉市外十八箇所ニ下幸シ四十箇所ニ於テ演説會ヲ  
開催、氣勢ヲ擧ゲツ、同十九日三府十八縣ノ代表者四十余  
名ハ東京市ニ到着セリ。

(v) 抗議陳情ノ模様

十月十二日代表者十七名ハ總本部員泉野利喜藏、千崎富一  
郎等ト共ニ、大阪控訴院長及檢事長ヲ訪問セルモ何レモ不  
在、萬植田次席檢事ニ面接シ、本事件ニ對スル監督官廳ト  
シテノ措置ニ就キ抗議陳情セリ。

同一行ハ上京後司法大臣、檢事總長ニ面接シ本問題ニ就キ  
種々事情ヲ具陳セリ。尚内務省、大蔵省ヲ訪問シ地方改善  
施設事業等ニ就キ陳情スル處アリタリ。

同一行八十一月十六日一先ツ解散シ各々歸縣シ報告演説會  
ヲ開催スルコト、セルガ、高裁全國委員會ニ於テハ第二段  
、闘争トシテ税金不納同盟、小學兒童ノ同盟休校、徵兵忌  
避同盟、改善施設獲得同盟等ノ大衆組織ヲ指令シ、國民義  
務、忌避等ニ依リ目的、貫徹ヲ圖シントシツ、アリ。

(5) 他團体ノ應援活動

日本共產黨機關紙赤旗（九月十一日第一五六號）ニ本運動ヲ支持スベ

「一切、身分的差別ト榨取ヲ根底カラ消滅サセル爲メニハ先  
づ労働者農民、民主主義革命ニヨツテ……プロレタリアト  
トハ唯一ノ前衛我党ノ指導ニヨツテノミ勝利スル……労働  
者農民ハ政治的無権利、元光天皇制ト闘フ全水、兄弟ヲ支持  
セヨ……」等ノ記事ヲ掲載セリ。尚極左團体タル勞農保護  
士團、全農全國會議、日本消費組合聯盟、日本プロレタリア  
文化聯盟、日本勞農救援會準備會、及ビ中間並左翼團體タル  
社會大眾黨、關東労働組合會議、日本勞働組合總評議會、ニ  
於テモ同運動ヲ支持シ糾弾闘争支持ノ會等ヲ組織シ、檄文シ  
發行、演説會、開催、署名運動、闘争基金、募集或ハ請願隊

，歓送迎等、應援活動ヲ爲セリ。

#### (6) 警察取締ノ状況

本件抗議運動ニ對シテハ穩健適法ニ行動セシムル事ヲ方針トシ運動者ニ對シテハ豫メ注意警告ヲ加フル等適切ナル方途ヲ講ずル處アリタルガ、同運動ノ進展ニ伴レ全國水平社解消派ニ屬スル一部急進分子ハ同運動ヲ通シテ全國水平社ノ左翼化ヲ企圖シテ奮鬥シ遂ニ彼等ハ同運動ノ指導權ヲ掌握スルニ至リ全ク同運動ハ彼等ノ爲メニ來ザレタル模様ナリ。而シテ演説會ニ於テ或ハニユース、ビラ等ヲ以テ階級意識ノ激成、直接行動、國民、三大義務、忌避ヲ煽動又ハ裁判ノ神聖ヲ害

スルガ如キ不法矯激ノ言動ヲ爲シ又ハ記事ヲ掲載シテ共産主義思想ノ浸透ニ努ムル處アリ、之等ニ對シテハ無論ノ制限、出版物ノ禁止處分ニ依リ嚴重ナル取締ヲ爲シツ、アリ。

抗議陳情隊ノ取締ニ就テハ參加人眞ヲ一府縣聯合會一名乃至二名ニ制限シ、其ノ他氣勢ヲ張ルガ如キ行爲ヲ禁止シテ群衆心理ニ基ク事故ノ防止ニ努メタリ。

香川縣ニ於テハ演説會ニ際シ喧噪シ或ハデモヲ敢行シテ氣勢ヲ張リ、爲ニ傷害事件一件、傷害、公務執行妨害事件一件、ノ發生シ見タリ。是レニ對シテハ取調ノ上事件ヲ送局セリ。

本問題ハ北原恭作ノ例ニ倣ヒ直訴スルニ非ラザレバ所期ノ目

的ガ遠セラレザルガ如キ浮説ガ流布セラレシ、アルヤノ情報  
アリタルヲ以テ、事ヲ未然ニ防止スベク容疑者ノ取調べヲ爲  
ス處アリタリ。

以上ノ通同運動ニ對シテハ穩健適法ニ行動セシムルコトヲ方針  
トシ一面又不法矯激ニ豆ル行動ニ對シテハ假借ナク嚴重ナル取  
締ヲ加ヘ依テ以テ警察取締ノ完璧ヲ期シタリ。

一、香川縣水平社貪ノ傷害、公務執行妨害、治安  
警察法違反事件ニ關スル件

(一) 請願代表報告演説會ノ開催

高松地方裁判所ノ結婚誘拐事件ノ判決ニ對スル抗議運動ノ為囂  
ニ上京セル所謂請願隊、一行中香川縣代表朝倉武夫、山口縣代  
表中川尚美、山本凡児、長崎縣代表酒井邦雄ノ四名八十一月二  
十四日香川縣香川郡鷺田村上馬場ニ來リ當夜座談會ヲ開催シ、  
同二十五日馬場公會堂ニ於テ報告演説會ヲ開催スルコトニ決定シタルヲ以テ、  
數ヶ所ニ於テ同様演説會ヲ開催スルコトニ決定シタルヲ以テ、  
高松警察署ニ朝倉、酒井及松本甚七ノ三名ヲ招致シ特高主任ヨ

リ演説會ニ於テ不穏ノ言動ナニ様警告ヲ爲セリ。

同二十五日前記上馬場、馬場公會堂ニ於テ報告演説會ヲ開催セルガ聽衆二百余名ニシテ先づ松浦万次ハ開會ノ辭ヲ述べ並ニ長崎縣代表酒井邦雄ガ演説セルモ論旨穩健ニシテ聽衆中ニハ慷慨テザルガ如キ口吻ヲ深ラムモノス、テアリタルガ、山本久松、松本甚七、中田道夫等ノ弁論相當熟意アリタル爲メ聽衆ハ絹々昂奮セル模様アリタルガ、次ニ松浦廣一ハ『吾々ノ過去ノ鬪争が取締官憲ニ對スル抗争ノ目標ニ進ミツ、アリテ莫大ノ鬪争目的ヲ沒却シ何等ノ効果ヲ收メ得ば、須ク部落民ハ過去ヲ反省自覺スベキデアル云々』ト述べタルニ野次ヲ飛バスモノアリテ一時會場

黯然タリシガ、是ニ引續キ水本熊一ハ登壇セル萬平靜ニ歸シタルガ水本ハ酒氣ヲ帶ビ居リテ徒ラニ煽動的言辞ヲ以テ松浦廣一ノ弁論ヲ反駁攻撃シタル後、警察攻撃ニ移リ『今晚多數來テ居ル警察官ハ吾々ヲ保護スル爲メカ、否左様デナイ吾々ヲ檢束スル爲メダ』ト述べタルノ以テ臨監ハ中止ノ命ジタルニ、三、四十名ノ聽衆ハ一時ニ立上リ『中止ニ閑ハゞ遣レ々々』ト喧嘩セルモ司會者及警察官ノ制止ニ依リ約十分余ニシテ平靜ニ歸シタルガ、亞ゲ地元代表タル朝倉武夫ハ猛烈ナル柏子ニ迎テレテ登壇シ『我々ハ此處デ紛擾シタル高松署ヲ相手ニ學フベキ時期ニ非ラズ些事ニ拘泥セズ大局ニ向ツテ進ムベキダ、即ナ我々ハ資本

家階級 ヤ 特權階級 ノ 本據ヲ突クノが最後ノ目的ダ』ト述べ中止ヲ命  
ぜラレ、聴衆が最モ熱意ヲ以テ同人、所論ヲ聞カムトシ居タル  
ニ僅カニ三分ニシテ臨監ヨリ中止ヲ命ゼラレタル爲メ、聴衆ハ  
總立ナトナリ中西小次郎等ハ臨監ニ對シ『注意ナリヤ 中止ナリ  
ヤ』ト迫リ尚聴衆ハ口々ニ『中止スベキ時期ニ非ラズ』『中止  
ハ不當ノ彈圧ダ』『中止ニ關ハズ遣レタ々』等ト喧嘩シテ臨監  
席ニ迫シリ。

(二) 傷害、公務執行妨害、治安警察法違反事件發生ノ狀況  
右ノ如ク驟然タル裡ニ藤沢又一ハ傍ニアリタル木製机(長サ一  
間巾一尺高サ一尺二三寸ノモノ)ヲ振リ上ゲ臨監ニ投ゲ付ケム

トシタルヲ司會者松浦万次ハ之ヲ奪ヒ阻止シタルニ藤沢ノ傍ニ  
アリタル水本熊一ハ松浦万次ヨリ同机ヲ奪取シテ臨監島警部補  
ニ向ケ投ゲ付ケタルモ前方一尺余、箇所ニ落セリ、斯くて會  
場ハ全ク混亂ニ陥リタル爲同十時三十分臨監ヨリ解散ヲ命ジタ  
リ。解散ヲ命ゼラル、ヤ聴衆ハ狂亂、如ク猛リ兵士控所及會場  
内ニアリタル鑄物製火鉢(直径一尺ニ二十萬サ一尺位ノモノ)三個  
中ヨリ灰ヲ掏出シテ警察官ニ向ツテ投擲シ其ノ灰ヲ殆ンド  
撒キ散ラシ爲ニ場内ハ灰ヲ以テ掩ハレ咫尺ヲ兵せザルニ至シリ。  
尚其ノ際電燈ヲ消セト叶ズモノアリテ藤沢又一ハ電燈(場内ニ  
ハ兵士席ヨリ四尺位ノ前方床上ヨリ六尺位)处ニ一個卓燈アル

モノノ消えベク手ヲ差延ベテ之ニ觸レタル爲メ、電燈内タン  
グス線切断シ約一分位消燈シテ一時暗黒トナリタルガ電球ノ動  
搖ニ依リタンクス線接觸シ再び卓燈セリ。又前記火鉢二個ヲ警  
察官ニ向ツテ投ゲタルモ警察官ノ足許ニ転ダ来リタルニ遇ギズ。  
尚藤沢豊茂ハ警察官ヲ目掛ケテ下駄ヲ投ケ付ケタル爲藤川巡査  
ノ前額部ニ衝リ治療約一週間ヲ要ナル傷害ヲ與ヘタリ。以上ノ  
状況ニシテ警察官ニ對スル暴行傷害ヲ加へ公務ノ執行ヲ妨害セ  
リ。

解散ヲ命ゼラレタル聽衆ハ以上ノ通り暴行ヲ恣ニシ容易ニ退散  
セズ其後一應場内ヲ掃除シ朝倉武夫ハ聽衆ニ對シ着座ヲ促シタ

ル爲メ六、七十名ハ着座シ、更ニ演説會ヲ續行セントスル模様ア  
リタルシ以テ退散スベキ様命ジタルモ尚容易ニ退散セズ、斯ク  
スル中ニ電燈ハ自然ニ消燈シタル爲メ聽衆中場所ヲ改メテ開ケ  
ト称スルモノアリ、消燈ノ爲メ止ムナク漸次退散スルニ至リタ  
ルモノニシテ解散ノ命ヲ受ケ十ガラニ十分余セ退去セズ治安警  
察法第八條、第二十三條ニ該當スル行爲ヲ取テセリ。

### (三) 警察取締

同集會取締ノ爲メ制服十八名私服四名ヲ派シ、開會ニ先立チ監  
督ヨリ司會者及重立者ニ對シ徒ラニ喧噪セシメザル様警告シ典  
ヘタルニ靜肅ヲ保ツベキコトヲ誓約セルヲ以テ、多數ノ制服ヲ

シテ取締ヲ為スコトヲ避ケ、臨監島警部補、制服巡查、筆記二名取締三名、私服、警部補（特高主任）一名、巡查三名（場内ハ巡查二名）計九名ニ於テ取締ニ當リ他ハ待機セリ。

#### (四) 檢舉ノ状況

十一月二十六日所轄高松警察署司法特高西主任ハ檢事局ニ赴キ檢事ニ事件ノ顛末ヲ報告シ検査ニ付指揮ヲ受ケ同二十八日檢舉スルコトニ決シ、同二十八日午前五時ヲ期シ高松警察署貯制限三十名、私服二十名ヲ以テ檢舉ニ着手シ同七時三十分ニ終了、公務執行妨害九名、治安警察法違反十八名計二十七名ニシテ其ノ間檢舉ニ際リ、松本甚七、堀上政一外ニ名六警察ノ措置ヲ非難

セルモ反抗的行動ニ出デタルモノナク無事檢舉セリ。尚請願ハ表中川尚美外二名ハ善通寺、觀音寺ノ兩警察署ニ於テ公務執行妨害被疑者トシテ檢舉セリ。

其ノ後檢舉ヲ續行シ、十二月五日迄ニ總數公務執行妨害二十七名、治安警察法違反三十四名計六十一名ヲ檢舉セリ。

#### (五) 檢舉後ノ状況

檢舉後全水本部眞井元麟之八状況調査ノタメ高松市ニ來リ調査ノ上直ナニ歸阪シタル模様ナリ。而シテ目下ノ處不穏ノ策動ナク平靜状態ナリ。

一 海外不逞鮮人ノ内地潜入ニ對スル取締狀況

櫻田門不敬事件犯人李奉昌、上海爆弾事件犯人尹奉吉並七年三月以降五月ニ亘リ鮮内大連等ニ於テ逮捕セル上海不逞團密派、暗殺團員等ハ何レモ上海假政府並韓國獨立黨幹部金九ヲ中トシテ其一無徒党が画策致行シメタルコト判明セルヲ以テ直ケニ之ガ檢舉ニ着手シ現在引續キ尋常努力中ナルモ彼等ハ巧ミニ間再ヲ晦シ逮捕容易ナラザルノミナラズ、却テ警察機關ノ國際的錯雜ニ乘シ我狀先官憲ノ警戒網ヲ潜リ、次回兇暴致行ノ間隙ヲ窺ヒソ、アリテ此後ト雖何時是等不逞輩ノ内地潜入ヲ見ルヤモ計リ難久事態依然トシテ警戒憂慮スペキ情況ニアリタルヲ以テ

上海ニ於ケル警察力ヲ充実シテ極力元兎一味ノ逮捕ニ努ムルト  
共ニ内地其他ニ於ケル海港警備ノ完璧ヲ期シテ不逞分子ノ潛入  
ヲ絶對防止スルコト最も緊要ナリト認メ七年夏外務省初メ關係  
當局ト協議ヲ重ね在上海日本總領事館警察、擴充増員ヲ實行セ  
シメ他面右ニ先ダニ内地港湾警備ニ關シ後述ノ通り周匝綿密  
ナル計画ヲ樹立シ之ゲ檢舉ト潛入阻止トニ必死ノ努力ヲ拂ヒツ  
、アリ即ケ内地ニ於テハ李奉昌不敬事件直後各廳府縣ヲ督勵  
シ周密ナル計画ヲ下ニ不逞者潛入ニ對スル防止警戒ニ最善ヲ盡  
サシムルト共ニ最モ権要ト認メラル、大阪、京都、長崎、山口  
福岡等二府九縣ニ對シテハ七年三月一日以來特ニ國費ヲ以テ、

總數ニ一七名、警察官ヲ配當シ港湾警備ハ勿論、支那、朝鮮、  
台灣、閩東州等各海外航路出入船舶並主要列車、移動警察ヲ實  
施シ引續キ嚴重勵行中ナリ。

其結果未ダ内地港湾其他ニ於テ不逞者、逮捕ヲ見ズト雖モ之が  
為在上海不逞團ハ直接内地潜入、容易ナラザルヲ感知シ潜入コ  
ース等其方法ニワキ勘カラザル苦心ヲ為シツ、アルモノ、知クリ  
此事ハ同年三月下旬以降五月迄、間ニ於テ朝鮮、大連、安東縣  
ニ於テ逮捕、セル五名、不逞者ガ「直接内地潜入、困難ナルニシ  
リ滿洲朝鮮方面ヲ選ビタリ」ト、供述ニヨルモ明カナル處ニシ  
テ内地警戒、實施ハ如何ニ彼等ニ脅威ヲ與ヘ潜入、機會ヲ防止  
セ

シワ、アルヤヲ立證スルモノト謂フベシ。然來彼等上海鮮人一味、内地潛入ニツキテノ策動ハ其後引續キ行ハレ今後益々巧妙執拗ニ反覆セラルベキハ現ニ彼等が我出先官憲、嚴重ナル警戒網ヲ隨時隨處ニ密議ヲ凝シ或ハ北平、廣東、南京、滿洲、鮮内米國方面、同志ト隱密裡ニ連絡密謀シワ、アルニ微シ觀取シ得ベク之ガ事例トシテ七年十月神戸入港ノ米國汽船三等船客中ヨリ在布哇獨立團幹部ニシテ在上海ニ向フ途次寄港セルヲ檢索警察官趙鏞夏（當五十一年）が上海ニ向フ途次寄港セルヲ檢索警察官ニ於テ發見取調、結果上海ト密絡アリ治安維持法違反事件トシテ京城地方法院ニ移送シタルアリ。又八年二月天津ヨリ密カニナキヲ期シワ、アリ。

米國ニ赴キタル金奎植ハ彼地ニ於テ韓國獨立黨並韓國對日戰線統一同盟ノ宣傳煽動ニ努メ八月布哇ヨリ南洋ヲ迂回シ上海ニ歸ルマ直クニ南木ニ赴キ不逞團幹部數名ト會合對日破壞工作其他ニツキ議論セシガ知セ、更ニ元兎金九一激ハ最近ニ於テ其暗躍一段ト活潑ヲ加ヘ鮮滿各地ヨリ青年不良ノ徒ヲ募集シテ口的分子、養成ニ努メソ、アルモノ、如キハ其、顯著ナルモノトス。

情況以上、如キヲ以テ此際益々警備ヲ固ムル、緊要ナルヲ痛感シ昨秋並今秋、陸軍特別大演習、如キ特殊ノ場合ニ於テハ特ニ其警戒ヲ嚴密ニスル等警備、警戒上常ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ萬遺漏

一、上海不逞鮮人、現況並之が検査狀況

上海在住鮮人（現在約二〇〇〇人）中、所謂不逞者ト目入ヘキハ常ニ六七十名ヲ下ラズ。是等ハ從前ヨリ大体ニ於テ民族派、共產派、ニ派ニ分レ何レモ日本官憲ノ手入最モ困難ナル。佛祖界内ヲ根據トシテ各種不穢ノ團体ヲ組織シ、民族獨立、祖國光復ヲ名トシテ絶ヘズ兇暴不軌、陰謀ヲ廻ラジツ、アル狀況ナルが是等ノ團体ハ年年一月以来我出先官憲ノ不斷ノ手入ニヨリ幹部四散シ一時其ノ組織殆ド壊滅ニ瀕シタルモ、其ノ後密カニ連絡ニ努メタル結果、之が再興改組ヲ見タルモノ、如ク大体ニ於テ現在左記ノ如キ情況ニ在リ。

充

A. 民族派

1. 大韓民國臨時政府 (通称上海假政府)  
主要幹部 車利錫、金金植、尹琦燮、宋秉祚、李承晚  
金九、李重寧、崔東熙、申翼熙等
2. 韓國獨立黨 (本年八月佛祖界ニ事務所ヲ定ム)  
主要幹部 宋秉祚、崔錫淳、朴昌世、車利錫、李秀峯  
文逸民、李景山等
3. 大韓僑民團 (本年八月佛祖界ニ事務所ヲ定ム)  
主要幹部 宋秉祚、朴昌世、趙尚燮、金科奉、張德櫓等
4. 兩寅義勇隊 (事務所不定)  
主要幹部 朴昌世、姜易濟、李雲煥、李秀峯等
5. 燿士團遠東部 (事務所不明)  
主要幹部 宋秉祚、貝益均、趙尚燮等
6. 韓國對日戰綜統一同盟 (事務所不明)  
主要幹部 金金植、崔東熙、申翼熙、朴健雄等
7. 上海韓人青年黨 (事務所不明)  
主要幹部 金哲、李圭瑞等
8. 以上、外十數團体存スル尤其目的大同小異ニテ主要幹部  
ハ殆ド各團体共通ナリ

### B. 失産派

1. 中國失産党上海韓人支部

主要幹部 金丹治、梁明、曹龍岩、韓興敏等

2. 上海韓人友帝同盟

主要幹部 金基成、韓鎔等

以上、外二、三存スルモ幹部殆ド公一ニシテ中國失産党ノ指  
導下ニ在リ。

以下兩派ノ現況並之が取締検査狀況ヲ述ナベシ

#### (一) 民族派

##### 1. 現況

此派幹部ノ悉クハ上海爆弾事件後官憲ノ捜査急ナルヨリ從來  
1. 根據地ヲ脱出シ上海支那街、杭州、南京、嘉興等ニ逃避シ  
(其内宋易浩、李裕弼ハ逮捕セラレタルモ事件ニ直接關係ナク  
前者ハ沿維法違反事件トシテ處分サレ、後者ハ起訴留保處分  
トナル。更ニ最近李秀奉、金哲、二名逮捕セラレ目下取調中  
(一時四散ノ状態ナリシカ最近二、三ノ者密カニ歸滬シ巧ミ  
ニ相互通絡ヲ保持シテ會合協議ニ努メ、次回、光暴ヲ企ラミ  
ツ、アルモノ、如シ、即ケ、(1)金九ハ飽迄自家ノ急進的口  
行為ヲ敢行セムトシ上海ヲ策謀、根據地トスルノ危険ナルヲ

感シ、南京杭州、如キ奥地ニ逃避シ官署並四圍ヲ極力警戒シ僅  
カニ上海ニ腹心者ヲ満行シメテ情勢查察、殘留同志、連絡  
ニ當ラシメ、アナ系有力分子其他支那各地ニ散在スル不逞鮮  
人ヲ糾合シ極力支那側ニ接近ヲ圖リ鮮滿各地其他ヨリ不良青  
年ヲ募集シテ口的分子、養成ニ努メ及日抗滿、破壞工作ニ當  
ラシメムト策謀スル一方上海佛官憲取締ノ緩和ヲホムベク策  
動中ニアリ。(2) 僑民團宋集派一派ハ密カニ上海ニ立歸リ上海  
假政府、韓國獨立黨、韓國僑民團等既成團體、再興ニアタリ  
殆ド自派幹部ヲ以テ固メ、金九一派ト同様各地ヨリ青年ヲ募集  
シ、テ口的訓練ヲ施シ抗日破壞工作ニ當ラシメムト画策、模様

ニシテ尚自家勢力ニ對抗スル親日的鮮人ヲ排撃シテ口行為ヲ  
加ヘツ、アルモノ、如シ。(3) 金徽、金哲等ノ一派ハ依然トシ  
テ上海韓人青年黨ヲ背景トシテ密カニ支那抗日團ニ接近シ、同  
様及日抗滿、破壞工作ニ專念中。(4) 金金植一派ハ韓國對日戰  
線統一同盟、中韓民衆大同盟等ヲ背景トシ支那側抗日團其他  
逞團、戰線統一ヲ圖リ廣ク其趣旨ヲ在米各同志ニ懇へ同様資  
金、蒐集ト團結、強化ニ努メ歐米諸國支那、同情庇護ヲ得  
及日諸勢力、總力量ヲ集中シテ飽迄及日滿破壞行動ヲ敢行入  
ベク隱密裡ニ画策ヲ進メ、他面テ口的的人物養成ノ目的ニテ廣ク

青年ヲ募集シツヘアリ。

## 2. 捜査状況

不敬犯人李奉昌、上海爆弾事件犯人尹奉吉、佚述及上海出先官憲ノ内偵等ニヨリ之等光景計画ハ總テ不逞團幹部金九ヲ中心トレテ一味、画策ニ出デタルモノナルコト明瞭トナリタルヲ以テ事件以来上海總領事館警察ニアリテハ在上海各出先官憲ト一致協力シ之が逮捕掃蕩ニ必死ノ努力ヲ續ケフ、アルモ何分他國內ノ活動ニシテ我が警察権ノ行使自由ナラサル為メ搜査上絶へば各種ノ困難障害ニ遭遇シ所謂隔靴搔痒ノ憾深ク其逮捕ハ勿論查案内偵ニ就テモ尙アカラサル苦心ヲ要ジワハ

アル状況ナリ。然失我出先官憲ノ不眠不休ノ努力ト巧妙ナル捜査方法ニヨリ元兇金九ヲ初メ一味、巢窟ニ手入シタル事一再ニ止マラズ、不幸ニシテ金九等中心分子ニ至リテハ未だ逮捕ニ至ラザルモ今日迄檢舉シ得タル者トシテハ昨年以來

(1) 上海ニ於テ安昌浩、張鉄瑾、金德根、李裕弼、金哲、李秀峯、(2) 大連ニ於テ柳相根、崔興植、(3) 朝鮮ニ於テ李德柱、俞鎮萬、(4) 内地ニ於テ米國船ニテ上海ニ赴カムトスル在米不逞團幹部趙鏞夏等有力兇暴、徒相濡歎ニ捜査上漸次成功ヲ收メ

ツ、アリ。

(二) 共産派

在滬共産派鮮人ハ民族派幹部、四散セル機ニ乘ジ内地鮮内主義者ト連絡ヲ保ケ主義宣傳ニ躍進シ来リシテ以テ出先官憲ハ昨年九月二十八日以来幹部曹奉岩、姜文錫外五名ヲ逮捕シ同年十一月上海發汽船ニテ朝鮮總督府ニ護送ス。尚引續モ殘留党員、暗躍アリ。嚴重警察中ナリ。

右、外之等トハ別派ニ屬スルアナ系鮮人分子が本年三月十七日夜有吉公使ヲ暗殺スベク拳銃爆彈ヲ準備シ上海共同租界支那料亭ニ集合セルヲ我領事館警察ハ決行直前元心昌外二名ヲ逮捕シ引續モ殘留分子ハ檢事ニ努メツ、アリ。

一、中華民國留學生ニ對スル退去處分狀況

在留中華民國學生、共產主義運動又ハ排日運動ニ関シテハ平素特ニ嚴密ナル查察内偵ニ努力來レル處、昭和六年九月滿洲事變、昭和七年一月上海事變、勃發ニ刺戟ニテレタル彼等ノ一部不穩分子ハ、中國共產黨外廓團體タル中國瓦翼文化同盟、中國社會科學家聯盟指導ノ下ニ、昭和七年五月頃中國社會科學研究會日本分會（社研）、並ニ同年四月頃、新興文化研究會（文化研）ナル秘密結社ヲ組織シ、兩者共ニ、マルクス・レーニン主義革命理論ヲ研究宣傳シ、資本主義、帝國主義ヲ曝露スルコト、ニソウイエット社會主義建設、發展及本國內、革命情勢ヲ紹介

シテ以テ青年學生ヲ實際的革命闘争ニ誘導スルコト、三、將來、  
共產黨員ヲ養成スルコト等ヲ目的トシ、當面、任務トシテ特ニ  
「日本帝國主義打倒」ヲ目標トシテ、又日共產主義運動ヲ為ス  
ニ至レリ。斯クテ昭和八年五月ヨリ昭和八年一二月二日ノ間  
無届ニテ科學半月刊、同月刊、科學新聞、文化闘争、文化之  
光、外報種、不穩宣傳印刷物ヲ作成シテ留學生、本國各地學校  
、左翼團體等ニ領布シテ又日共產主義、宣傳ヲ為シ、又一方勢  
力擴充、目的ヲ以テ昭和八年十月表面上滿洲事變、上海事件並  
ニ長江一帶、水災ニ因ル罹災民救濟、為ノ、義捐金醵集ヲ目的  
トスル中華留日各界救濟國內難民聯合會ナルモノヲ組織シ、其

内實ニ於テ社研中心人物が其指導權ヲ握リ、又日共產主義運動  
、進展ニ努メタル結果、該聯合會ハ昭和八年一月ニ至リテハ都  
下各學校留學生ノミナラズ、在留勞働者ヲも會員トシテ獲得シ  
遂ニ八加入團體十九、會員八百六十名ニ達シ、其間、四百九十餘  
圓ヲ稼出シ、上海ニ於ケル又日共產系二團體ニ傳達スル等ノ策  
動アリタリ。

高昭和八年三月ニ至リ社研、文化研ハ中國左翼總同盟ヨリ日  
支兩國共產主義運動、連絡、為ノ日本ニ於ケル革命運動組織ニ  
加入スベキ旨、指令ヲ受ケ日本プロレタリア科學同盟員等ト協  
議、後、日本プロ科學指導下ニ、日本プロレタリア科學同盟華  
蓋

偽班ニ改組スルニ決シ。爾來單ニ留学生ノミナラズ一般在留中國人ニ對シテモ其勢力ヲ擴充セントスル情勢ニ立至リタリ。更ニ一味中ニハ日本共產黨又ハ中國共產黨ニ入党セルモノアリ。依ツテ當局ニ於テハ此ノ種ノ運動ハ國內ノ治安ヲ擾ルノミテラズ日支兩國ノ國交關係ヲ害スル虞勘カラザルモノアルヲ認ム。同年三月十五日以降警視廳ニ於テ一味ヲ檢舉、關係者中ノ主ナル者二十二名ニ對シテハ、六月七日内務大臣ヨリ退去命令ヲ發シ本國ニ向ケ追放セリ。

